平成 25 年度

フードバンク事業

実施報告書

平成 26 年 3 月

フードバンク岡山

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

はじめに

約 2000 万人、6 人に 1 人が貧困状態を余儀なくされているという厚生労働省の推計がある。そのような社会状況を背景に、地域には障害がある、高齢である、思わぬアクシデントに巻き込まれたなどの理由で、その日の食べものも十分でない状態で孤立化する方々が少なからず存在する。

岡山地域の生活困窮者支援は、虐待を受けた子どもたちのシェルターや DV 被害者支援、ホームレス支援等それぞれの分野において活動を行なっている。どの団体においても食糧支援は重要な活動であるにもかかわらず、それぞれの団体が限られた活動費の中から食糧費を捻出している現状がある。特に緊急時の対応には、団体職員の善意により食事提供を行なっているような現状もある。厳しさを増す社会状況を背景に、支援対象者は増加するが、その活動に充てられる地域リソースは限定的である。

一方で、農林水産省が 2012 年に発表した日本の食品ロス（本来食べられるのにもかかわらず捨てられている食糧）の年間総量は 500～800 万トンで、これは日本のお米の収穫量の約 800 万トンとほぼ同量である。

地域には、缶のちょっとしたへこみ、備蓄食品の入れ替え、特売の売れ残り、収穫できない野菜、つい買い過ぎた食材など、賞味・消費期限内にもかかわらず、さまざまな理由で捨てられる大量の食品と、捨てることに悩む企業や家庭がある。

「フードバンク」とは、これまで無駄になっていた「たべもの」と、それを必要とする「ひと」をつなげる活動である。平成 24 年 11 月に岡山県内の NPO が協働で「フードバンク岡山」を設立し、中間的な食糧の無償支援を始めた。しかし県内の支援団体からの高いニーズがあるにも関わらず、運営体制の整備が追いつかず、食品提供は限定的となっており、誰でもアクセスできる地域的な資源とはなっていないのが現状である。

そこで私たちは、フードバンクシステムを、より継続性のある生活困窮者支援の 1 ツールとして機能させたいと思い本事業へ応募した。そしてまた、本事業の実施過程において、「フードバンク」という「食」を通して、岡山地域にこれまでになかった、顔の見えるつながりができることで、本地域のセーフティーネットのより一層の充実を目指すものでもある。

平成 26 年 3 月

フードバンク岡山　理事長　糸山智栄

目次

1. 事業概要 1
1.1. 事業の目的 3
1.2. 事業計画 3
1.3. フードバンク岡山概要 5
2. フードバンク岡山運営協議会事業 7
2.1. フードバンク岡山運営協議会事業概要 9
2.2. 実施概要 11
2.2.1. 第 1 回フードバンク運営協議会 11
2.2.2. 第 2 回フードバンク運営協議会 13
2.2.3. 第 3 回フードバンク運営協議会 15
3. フードバンク活動の県外調査事業 21
3.1. フードバンク活動の県外調査事業概要 23
4. 岡山県全域におけるフードバンク活動のための基盤整備事業 25
4.1. フードバンク岡山の法人化事業実施概要 27
4.2. 会員制度整備事業実施概要 33
4.3. フードバンクを協働で実施する団体の運営マニュアル整備実施概要 35
4.4. パンフレットの作成事業実施概要 37
4.5. クラウドを活用した在庫管理システム導入事業実施概要 39
5. 岡山全域におけるフードバンク活動推進事業 43
5.1. 岡山地域におけるフードバンク活動実施概要 45
5.2. 笠岡地域におけるフードバンク活動実施概要 49
5.3. 津山地域におけるフードバンク活動実施概要 51
6. まとめ・資料 53
6.1. まとめ 55
6.2. 資料 56

1
事業概要

1.1. 事業目的

本事業は、フードバンク食品の提供要請があった場合、地域に分け隔てなく迅速かつ安全に、その要請に対応していくための基盤整備を目的とする。またフードバンク食品提供のための基盤整備事業を通して、県内全域の支援者ネットワークの拡充および生活困窮者の自立促進に資すればと考える。

1.2. 事業計画

1.2.1. 事業計画概要

(1) フードバンク岡山運営協議会事業
①目的 フードバンクを岡山で実施する上での課題や問題点について、毎回有識者に講演していただき、その後のフードバンク岡山の活動が応用できるよう、業務の改善点やアドバイスを受け、改善していく。 ②協議会構成：岡山のフードバンク活動に関わっている団体で 10 名程度を予定 ③開催日：平成 25 年 9 月、12 月、2 月 ④場　所：岡山大学インキュベータ会議室
(2) フードバンク活動の県外調査事業
①目的 地方都市で活動しているフードバンク多くは小規模であり、県内全域で活動するにはボランティアマネジメントや食の衛生管理手法など、ノウハウがかけている状態である。そのため東京にあるセカンドハーベスト・ジャパン等を視察し、東京・神奈川・埼玉の広域をカバーする手法と、マネジメント手法について学ぶ。 ②視察予定人数：3 名（フードバンク岡山　理事メンバー） ③視察次期：平成 25 年 10 月中旬
(3) 岡山県全域におけるフードバンク活用のための基盤整備事業
①目的 岡山県内全域において、食品支援が必要な方に安定して継続して提供できるよう、下記の４点を整備する。 １．法人 ２．会員システム ３．運営マニュアル ４．パンフレット ５．フードバンク在庫管理システム ②作成物 ・フードバンクを協働で実施する団体の運営マニュアル　50 部 ・フードバンク岡山のパンフレット　5,000 部 ③完成時期:平成 26 年 3 月

(4) 岡山県全域におけるフードバンク事業
①目的 　岡山県全域において、生活困窮者に対して地域の支援団体と支援チームを組み、継続して食品の提供を実施する。またそのノウハウを蓄積し、岡山県内の各市町村でフードバンク活動を行える団体を増やしていく。 ②実施場所 　岡山市・津山市・笠岡市の３拠点で実施を行い、その他の地域で食品提供希望があった際には郵送にて対応を行う。 ③対象者・サービス内容 　支援団体より生活困窮者支援のための食品提供希望があった際、その地域にあるフードバンク活動を協働で行っている団体が中心となって食品の提供を行う。また福祉サービスに繋がっていない場合は、地域の支援団体と連携を取り、福祉サービスにつなげていく。 ④連携団体の役割 NPO 法人杜の家：岡山市でのフードバンク活動 認定 NPO 法人子ども劇場笠岡センター：笠岡市でのフードバンク活動 NPO 法人オレンジハート：津山市でのフードバンク活動

(5) 報告書の作成
①目的 　事業の取りまとめとして報告書の作成・配布することで、フードバンクの認知度を高め、活動促進を行う。 ②作成部数：500 部 ③配布先 行政、社会福祉協議会、フードバンク会員団体、全国のフードバンク実施団体 また、HP 上においても、報告書の掲載を行う予定

1.3. フードバンク岡山概要

1.3.1. フードバンク岡山設立趣意（NPO 法人）

フードバンクは、これまで無駄になっていた「たべもの」と、それを必要とする「ひと」をつなげる活動です。

缶のちょっとしたへこみ、備蓄食品の入れ替え、特売の売れ残り、収穫できない野菜、つい買い過ぎた食材など、賞味・消費期限内にもかかわらず、さまざまな理由で捨てられる食品と、捨てることに悩む企業や家庭があります。その一方で、障害をもつ、高齢である、思わぬアクシデントに巻き込まれたなどの理由で、その日の食べものも十分でない状態で暮らす方々が少なからず存在します。

農林水産省が 2012 年に発表した日本の食品ロス（本来食べられるのにもかかわらず捨てられている食糧）の年間総量は 500～800 万トンで、これは日本のお米の収穫量の約 800 万トンとほぼ同じです。一方で、わが国で貧困状態を余儀なくされている人は約 2000 万人、6 人に１人もいるという厚生労働省の推計もあります。

私たちフードバンク岡山は、まだ十分食べられるのに市場価値を失ったり、余ったりしているたべものを企業や個人から寄付してもらい、それを必要とする福祉施設や団体に届けることで、私たちが暮らす地域の社会面、経済面、環境面における多様なリスクを軽減していきます。

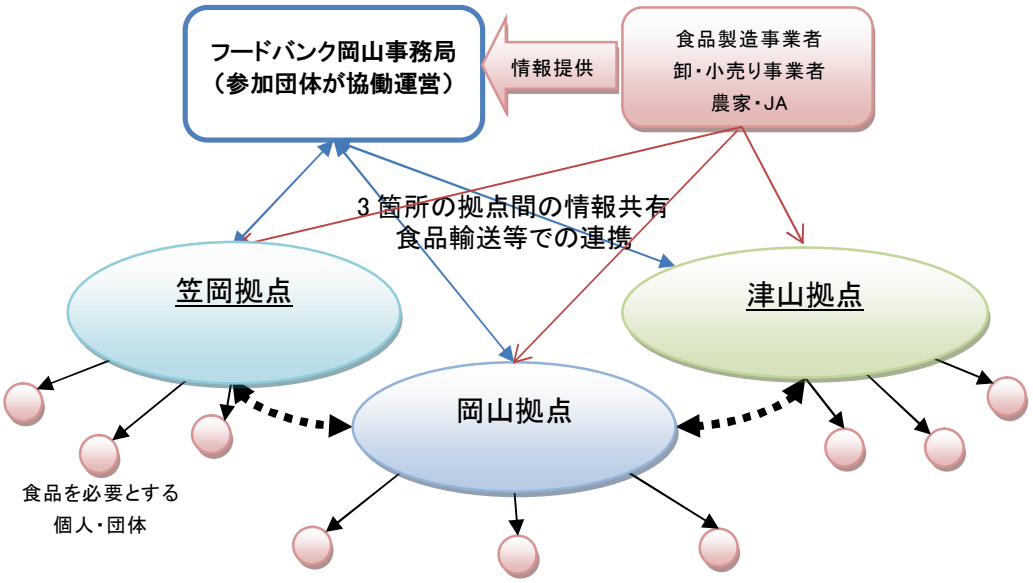
また、私たちが岡山でフードバンクを始めてから、「たべもの」を通じて、地域にはいままでになかった形での「ひと」と「ひと」とのつながりが生まれています。

精神に障害をもちながら安全な食品を家庭に届ける「ひと」。頼れるまちの自転車屋さん。児童養護施設のこどもたち。こだわりのイチゴ農家さん。日々若者のサポートに奔走する「ひと」。ほんの最近母親になった「ひと」。地域社会に献身する研究者。母子の悩みをしっかりと聴き支える「ひと」。専門技術を習得するために日本にやってきた「ひと」。地域社会の安定したエネルギー供給を守る「ひと」。懸命にホームレス状態から抜け出そうとする「ひと」。

わたしたちの社会には、福祉・環境・教育等の多様な分野に、NPO・大学・行政・企業・個人などの多様な形で関わる主体(ひと)がいます。フードバンクは、異なるバックグラウンド、多様な価値観をもつ「ひと」たちが、これまで培ってきた助け合いの仕組みをベースに、命の糧としての「たべもの」のやり取りを通じて、新たな工夫をつくり出す場でもあるのです。

私たちフードバンク岡山は、これまで無駄になっていた「たべもの」と、それを必要とする「ひと」とをつなぐことにより、社会面、経済面、環境面における多様なリスクを軽減するとともに、ここに暮らす多様な主体をつなぎ直し、その歴史を土台に新たな協働の文化を生み出すことで、地域社会のよりいっそうの成熟に貢献していきます。

1.3.2. フードバンク運用(イメージ図)



1.3.3. 事業の役割分担

（１）フードバンク岡山（事務局）

フードバンク岡山（事務局）は、岡山でフードバンク活動に携わる団体が協働し、以下の業務を担う。

・食品の提供・受け取り、運送団体等との折衝、マッチング、受け渡し、情報管理（地域外）

・食品の在庫、出庫管理、流通システム構築と改善

・会員（正会員・賛助会員）募集、情報管理

・広報、啓発活動等

（２）拠点事業実施団体

具体的な食品の配送業務や倉庫機能を担う。

・食品の提供、受け取り、運送団体等との折衝、マッチング、受け渡し、情報管理

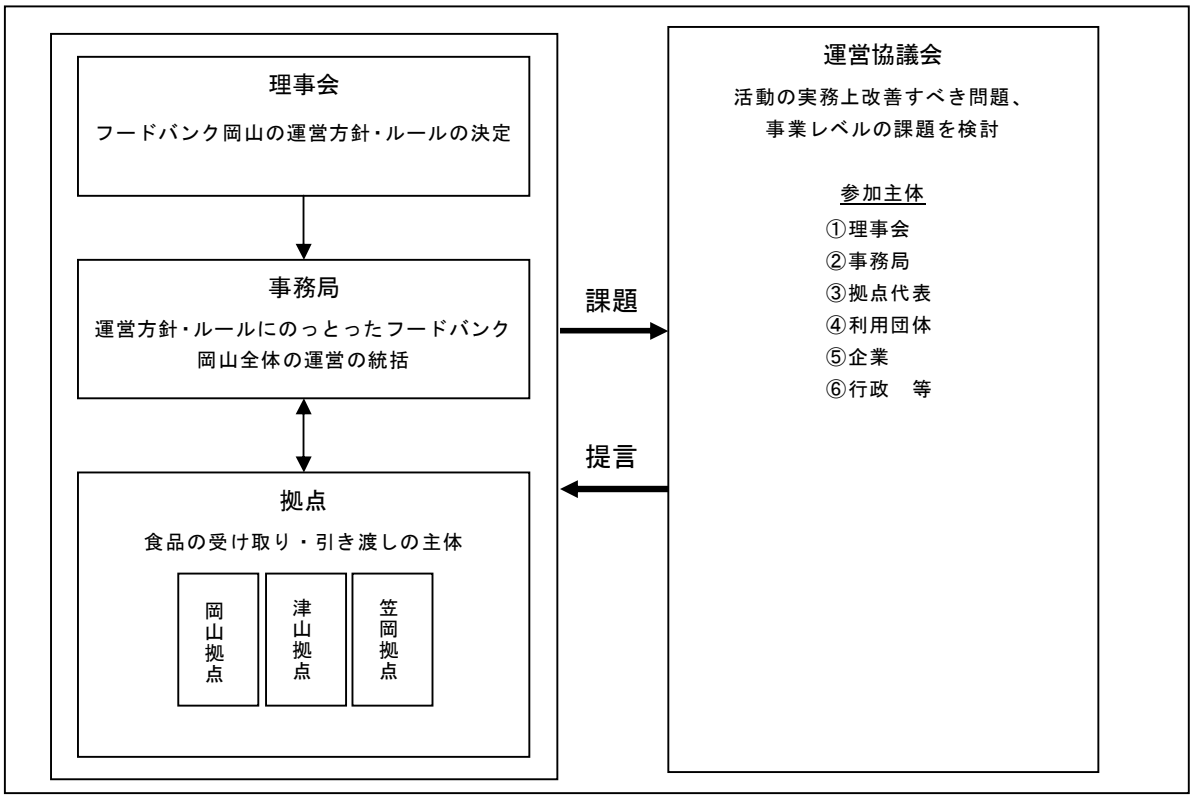
・食品の在庫、出庫管理

① 岡山拠点・・・主に岡山市内を中心に食品の受付管理・配送を行う。

② 笠岡拠点・・・笠岡市を中心に食品の受付管理・配送を行う。

③ 津山拠点・・・津山市を中心に食品の受付・管理・配送を行う。

1.3.4. 組織図



2
フードバンク岡山
運営協議会事業

2.1. フードバンク岡山運営協議会事業

9 月 17 日に実施した第 1 回フードバンク運営協議会の様子

2.1.1. 趣旨と経緯

2012 年 11 月より開始した実際のフードバンク活動をとおして、「多様な事業実施主体の運営の円滑化」「市民の参加の促進」「日本におけるフードバンク活動の今後の方向性」などの諸課題が徐々に明らかになってきた。そこで本事業では、日々の運営に関わるメンバーが中心となり、これらの課題の解決に向けて協議できる場を設けた。毎回テーマを設定し、それに沿った有識者あるいは実践者の方々に講演をしていただいた。運営の改善点のヒントやアドバイスから、今後の方向性まで、具体的な方法論も交えながら多様な示唆をいただき、一歩踏み込んだ協議を行うことができた。

運営協議会メンバーには、有識者として神崎浩教授（岡山大学農学部）にご参加いただき委員長も務めていただいた。また、オブザーバーとして、食品提供・受取り団体関係者、食品の運搬・システム整備・啓発活動などに関わる個人ボランティアなど、多様な関係者にオブザーバーとしてご参加いただいたことにより、より多角的で構造的な議論となった。

2.1.2. フードバンク運営協議会メンバー一覧

氏名	所属	経歴
神崎浩	岡山大学環境生命科学研究科教授	平成 23 年度、24 年度フードバンク活動推進事業（農林水産省事業）、フードバンク活動推進検討会委員長
糸山智栄	えくぼホームヘルパーステーション	岡山市街地にて拠点事業を実施/フードバンク理事長
宇野均惠	認定 NPO 法人子ども劇場笠岡センター	子育て支援・高齢者・障害者等の居場所づくり/県南西部の笠岡地域で拠点事業を実施
角野いずみ	NPO 法人オレンジハート	子育て支援・不登校親子の居場所づくり/県北部の津山地域で拠点事業を実施
湊照代	NPO 法人ふれあいサポートちゃてぃず	子どもや親たちのふれあいの場づくり/県南部の備前地域で拠点事業を実施
山本真也	NPO 法人ミニコラ	精神的な障がいのある人の食事提供/隣接団体の宅配事業を活用した寄付食材の運搬/フードバンク岡山副理事長
豊田佳菜枝	NPO 法人岡山・ホームレス支援きずな	ホームレス支援/岡山市街地にて拠点事業を実施/フードバンク岡山理事
大森浩史	NPO 法人杜の家	うつ病等の精神的な問題を抱える人の農業での雇用/フードバンク岡山事務局長
石坂薫	（株）廃棄物工学研究所	3R 推進。平成 23～25 年度フードバンク活動推進事業を受託 /運営を広範囲にサポート/フードバンク岡山理事
三田善雄	みた農園	個人米農家/運営をサポート/フードバンク岡山理事

2.1.3 フードバンク岡山運営協議会実施概要

	日時	テーマ
第 1 回	9 月 17 日（火） 18:00～20:00	複数拠点の運営の円滑化～ミッションの共有と内部支援マニュアル作成について
第 2 回	12 月 18 日（水） 18:00～20:00	活動への市民参加～フードバンクの啓発活動のためのワークショップ体験とプログラム開発について
第 3 回	2 月 15 日（土） 17:00～19:00	日本におけるこれからフードバンク活動～多様な主体の連携促進と分野横断的な枠組みの創出について

2.2. フードバンク岡山運営協議会概要

2.2.1. 第１回フードバンク岡山運営協議会実施概要

（１）日時：2013 年 9 月 17 日(火) 18:00～20:00

（２）場所：岡山大インキュベータ２Ｆ会議室(岡山県岡山市北区津島中 1-1-1)

（３）ゲスト講師：　多田英起 氏(有限会社ベクトル統括マネジャー)

森かほり氏(広報担当)

（４）テーマ：複数拠点の運営円滑化～ミッション共有と内部支援マニュアル作成について

（５）参加者：協議会メンバー9 名、オブザーバー6 名

（６）議事

18:00～18:02　開会挨拶　フードバンク岡山 糸山智栄氏(理事長)

18:02～18:05　運営協議会説明　フードバンク岡山　大森浩史氏(事務局長)

18:05～18:15　参加メンバー自己紹介

18:15～19:10　講演「世界を笑顔に！危機から見えたベクトル組織運営のキモって?」

講師：多田英起 氏(有限会社ベクトル統括マネジャー)

19:10～19:55　運営協議会

開会挨拶＆議事進行：神崎浩氏（岡山大学環境生命科学研究科教授）

19:55～20:00　連絡事項　第 2 回フードバンク岡山運営協議会の開催について

（７）資料

資料１　フードバンク運営協議会の開催と団体運営マニュアルの作成について

資料２　「フードバンク岡山」活動報告

資料３　フードバンク岡山の動き

資料４　フードバンク岡山運営協議会概要

（８）講演会要旨

・会社事業概要

有限会社ベクトル（URL: http://vector-enter.jp/）

業務内容：衣料品等のリサイクル業

設立：平成 15 年　従業員数：125 名

店舗数：岡山：32、全国：31　合計 63 店舗

・経営の危機

ネットショップでの取引停止

危機脱出の鍵は、何度も会議を重ねてつくったキャッチコピー

・経営理念のシンプルな言語化と共有の重要性

インナーモティベーションを高め持続することが運営のキモ

迷ったとき立ち返れる「ものさし（ベクトル)」どう持ち続けるのか

（9）運営協議会要旨

・フードバンク岡山のコンセプトをシンプルに言語化するワークショップの実施

コーディネーター：多田英起 氏

ワークショップで出てきたキーワード一覧

【もったいない】	【つながり】	【参加⇒プラス感情】	【食】	【社会課題可決システム】
・子どもたちに伝える「もったいない」 ・もったいない	・人がつながる ・つながり ・絆 ・縁 ・バトン ・リレー	・ありがとう笑顔 ・やさしさ ・参加する満足感	・食 ・食を通じてつながる	・食を通じて ⇒社会変革 ・食品を通じて ⇒社会課題解決 ⇒SB ・人が働けて給与が出る SB

・キーフレーズ：「もったいない食べものを笑顔でつなぐやさしさのリレー。

これを岡山でいかにシステム化していくのか？」

・フードバンク岡山運営マニュアル作成について

フードバンク岡山　大森浩史氏

・協議内容の要旨

運営の体制の整備

・内部のことをきっちりとしてから外部へ

・他の団体からフードバンクの拠点をやりたいと手があがったときにどうするか

・事務局、理事会、運営協議会の整理し、意見交換ができる体制を

・各拠点が理事になる方向性も検討

基準の明確化

・意志決定構造、業務執行構造の明確化

・各団体の活動範囲の明確化

・食品配布基準の明確化

・ベクトルも同じ、各店舗のよりどころが必要、マニュアル、組織図の整備

平行して、心のよりどころをつくっていくことも大事

2.2.2. 第 2 回フードバンク岡山運営協議会実施概要

（１） 日時：2013 年 12 月 18 日(火)18:00～20:00

（２）場所：岡山大インキュベータ２Ｆ会議室(岡山県岡山市北区津島中 1-1-1)

（３）講師：八木亜紀子氏(NPO 法人開発教育協会ファシリテーター)

（４）テーマ：活動への市民参加～フードバンクの啓発活動のためのワークショップ体験とプログラム開発について

（５）参加者：協議会メンバー6 名、オブザーバー5 名

（６）議事

18:00-18:02　開会挨拶　糸山智栄氏（フードバンク岡山　理事長）

18:02-18:03　第 2 回運営協議会説明　三田善雄氏（フードバンク岡山理事）

18:03-18:05　講師自己紹介

18:05-19:30　参加型ワークショップ　（ホームレス問題）

ファリシテーター：八木亜紀子氏（NPO法人開発教育協会）

19:30-19:55　運営協議会

19:55-20:00　まとめ　神崎浩氏（岡山大学環境生命科学研究科教授）

連絡事項　第３回フードバンク岡山運営協議会の開催について

（７）ワークショップ要点

【NPO 法人　開発教育協会概要】

国際協力 NGO や国連関係団体、地域の市民団体など約 50 の民間団体と約 700 名の個人で構成される教育 NGO です。1982 年に発足して以来、開発教育と呼ばれる国際理解や国際協力をテーマとした教育活動や参加型学習の普及推進を行なっています。

ワーク１：「フォトランゲージ：なんか変だな」

半分に切った写真を配る→写真がマッチするペアを探して 2 人で 1 グループになる。

写真を見て感じたことを話す。

ワーク２：「絵あわせ：四コマ漫画「釜が崎〈ドヤ街〉まんが日記」」

4 コマ漫画を場面ごとに 4 つに分けたものを一人 1 枚わたす。

それぞれの場面がつながり 4 コマ漫画になるようにグループになる。

ワーク３：「ロールプレイ：シェルター建設をめぐって」

状況カードをグループで読む。役割カードを各自で読む。

それぞれの立場から意見交換

ワーク４：「ダイヤモンドランキング：野宿問題を解決するために」

9 枚のカードをグループ配る。

カードに書かれている内容で重要だと思う順番にランキングする。

（８）運営協議会要点

広報の重要性

・何を伝えたいか、誰に伝えたいかによって内容を考える

・フードバンクを日本語にしてわかりやすく説明するには？

関係者の相互理解

・活動に携わっている人が、普段どんな活動をしているのかを知る。

・多様な活動をしている人が関わっているということが強みになっている。

（９）参加型学習プログラムの開発と実践

岡山紀念病院主催の健康教室の講演会において、フードバンクに寄贈され食品の写真を使用し、寄贈理由をクイズ形式で出題するワークショップを実施した。特に寄贈食品が「期限切れでない」ことを参加者に伝えるために非常に有効なプログラムとなった。

日時：2014 年 1 月 25 日（土）13:00～14:30

場所：岡山紀念病院　本館 2 階　研修室

講師：フードバンク岡山代表理事　糸山智栄氏

プログラムのねらい：

①賞味期限や消費期限が切れたモノではないこと。

②様々な理由で、まだまだ食べられるのに捨てられてしまっている食品ロスと呼ばれるものがたくさんあることを理解してもらう。

準備物：

寄贈された食品の写真（20 枚一組、5 セット）

ホワイトボード

プログラムの進行：

①【クイズ】

20 枚の写真をざっとみてもらい、なぜフードバンクに食品が寄贈されるのか、口々にあげてもらい、ホワイトボードに列記していく

例）①賞味期限がすぎたので

②入っていたダンボールが破けたから

③商品が売れずあまったので　　等

②【話合い】

20 枚の写真を一枚ずつ掲げ、なぜこの食品が寄付されたのか明らかにし、ホワイトボードに列記した寄贈理由にチェックを入れる。

【評価】

・「期限切れ」のものはひとつもないことを明らかにした。

・さまざまな理由で廃棄されていることを実感してもらった。

2.2.3. 第 3 回フードバンク岡山運営協議会（拡大運営協議会）実施概要

※第 3 回フードバンク岡山運営協議会は、フードバンク岡山のＮＰＯ法人化の記念イベントに先だって拡大運営協議会として実施。運営協議会メンバーに加え、食品の運搬、受け取り、実際の調理や提供などに関わるメンバーが多数オブザーバーとして参加。

（１）日時：2014 年 2 月 15 日(土)17:00～19:00

（２）場所：Dining Style ろく（岡山市北区錦町 3-101　天水ビル３F）

（３）講師：井出留美氏　（女子栄養大学非常勤講師、博士（栄養学））

（４）テーマ：日本におけるフードバンクの役割とこれから

～多様な主体の連携促進と分野横断的な枠組みの創出について

（５）参加者：協議会メンバー6 名、オブザーバー18 名

（６）議事

18:00～18:02 開会挨拶　糸山智栄氏（フードバンク岡山理事長）

18:02～18:05 第 3 回運営協議会説明　三田善雄氏（フードバンク岡山理事）

18:05～19:00 講演：「日本におけるフードバンクの役割とこれから」

講師：　井出留美氏（女子栄養大学非常勤講師、栄養学博士）

19:00～19:55 パネルトーク（運営協議会）

テーマ：「多様な主体の協働のコツ」

パネラー：井出留美氏（女子栄養大学非常勤講師、博士（栄養学）

神崎浩氏（岡山大学環境生命科学研究科教授）

糸山智栄氏（フードバンク岡山理事長）

ゲストコメンテーター:

藤井明氏（NPO 法人ミニコラ　スタッフ）

山本亮太氏（自立援助ホーム大元荘）

久田邦博氏(NPO 法人岡山･ホームレス支援きずな　ボランティア)

19:55～20:00　挨拶　神崎浩氏

（20:00-21:00　フードバンク岡山ＮＰＯ法人設立記念イベント）

（７）講演要旨

「日本におけるフードバンクの役割とこれから」

①食品ロスと福祉分野の協働

②全国の多様性を活かす

③エビデンス「NPO にかけているのは数字」

【会場より】

・大学で農と福祉の連携協働をテーマにプログラムを実施している。精神障がい者を農業に雇用する取り組みをしている。

・若者の就労支援に農業体験事業を実施している。個々人のアセスメントの部分でも農作業を活用。
・家に帰っても食事を用意してもらえない子どもが確実にいるが、フードバンク食品をそう場に表だって活用できるとかというと難しい。現状では、ランドセルにこっそり食品を入れたり、夜家庭訪問して食品を渡したりという対応となっているようだ。

（８）パネルトーク（運営協議会）要旨

糸山：神崎先生の大学と地域、行政との幅広い活動について簡単にご紹介していただき、たくさんの団体が連携してやっていく秘訣などをお願いします。

神崎委員長：大学が中核になった地域活性化の実践を内閣府が提唱。大学にはそれ以前からの経験があったのと、農政局局長さんが積極的だったのもあり、農と福祉の連携というテーマも入れて開始した。いろんな方を紹介していただき、大学の農場に障がいのある方々に来ていただき農作業を実施。研究科長をしている環境生命研究科では、農学部と環境理工学部が廃棄物マネジメントという共通項で共同研究をしおり、岡山市とも協働しながら、食品のロスの削減をテーマにした子ども向けの多様なイベントなども実施。
　個人的なスポーツ少年団の監督の経験から、親に「相手のことをよく知ろうとしてください」と、どうしたらわかってもらえるかと思うことがある。それぞれの個性を把握し、それ活かしながら団体の存続について考えるという視点は非常に大事で、大学の教員として次世代のリーダーを養成していく上でも重視。
　大学院時代の恩師がおっしゃっていたのは、「mutual　interests(個々の興味)」 ではなく「mutual respect（相互尊重）」が大事ということ。個々の興味を大事にするのはいいが、そればかりだとまとまらない。お互いを立てながらというのが非常に大事。

糸山：井出さんにもおうかがいしたいのですが、企業さんともつきあわれますし、提供先の福祉系団体の方々ともつきあわれると思いますが、それぞれの団体とつきあわれるときのコツであるとか、つきあってみての感想とかありましたら。

井出：２ｈｊは 473 社と提携を結んでいて、それぞれの企業さんの状況を尊重。同意書の内容も多様。提供先の団体さんも、例えば、シェルターは住所を知られてはいけなし、男性は行ってはいけませんので、食品の受け渡し場所を他に調整するなど団体さんごとに配慮。例えば、「だから男は」とか、「だから女は」とかと、まとまったステレオタイプのようなものだけで物事を見ない方がいい。施設と企業とかひっくるめる場合もありますが、それぞれの個性を活かすというのでしょうか、先生がおっしゃっていただいた相互のリスペクトというところが大事だと思います。

糸山：それぞれの団体の個性を活かすというところでは、私たちの団体のフードバンク岡山は、本当にたくさんの団体でやっているので、関わっていただいてのそれぞれの感想などをお願いします。

山本（真也）：NPO 法人ミニコラ（障がい者が食事作りをしている作業所）の運営に関わっている。フードバンク岡山との関わりのきっかけは、食によるセーフティーネットというキーワード。

現在、セーフティーネットを必要としている方が、非常に増えている。井出さんの講演にもありましたが、年収が 200 万円という貧困ライン以下で生活をする方が 2000 万人を超えて、労働者の 3 人に 1 人は非正規労働者という状況は、20 年前だったら考えられない状況。時代の変化に対応できないと、障がい者施設も生き残っていけない。セーフティーネットの恩恵を自分たちで消費してしまうのではなくて、なんとか社会に還元できないかと考えている。

例えば、非正規で解雇されて、生活保護を申請しているが、それまでの蓄えがなく明日食べるものにも困っているという状況の方が、フードバンクの活動でつながったサポートステーションから紹介される。私たちの食堂に食べに来られ、代わりにちょっとお皿を洗ってもらうとケースが、昨年何度かあった。こういったことは、障がい者施設で働いている側の人たちにとっても、社会勉強になった。

また、パステルという牛乳配達の施設もある。岡山市内に宅配のルートがあるので、フードバンクに提供された食品の集配に協力している。こういった形で社会貢献をする障がい者作業所ということで、なんとかこれからの厳しい時代を生き残っていけないかと考えている。

藤井：パステルで牛乳配達をしている。津山に牛乳仕入れに行く時に、パステルから津山のオレンジハートさんにフードバンクの食品を持って行ったり帰ったりしている。それから週一回は、うどんを取りに行って、それをパステルに持って帰ってきて、そのルートで大森農園さんに、フードバンクの荷物を持って行ったり、持って帰ったりしている。社会貢献とかは、運んでいるだけでよくわからないですが、ぼくの感想としてはいいことしているなあと、まあそれくらいですかね。

糸山：津山のオレンジハートさんいかがでしょうか

山本（早苗）：オレンジハート津山のスタッフとして、津山拠点としてフードバンク活動にかかわる。糸山さんと食品の調整をして、パステルの山本さんに連絡して、藤井さんと食品の受け渡しをする。先日の木曜日の便で、津山の（株）田辺（食品卸し業）さんからお菓子（バームクーヘンなど）をいただいたので、岡山のほうに運んでもらう。逆便もある。

週 3 回そのルートがあるので、とても助かっている。

糸山：運ばれていく食材が実際に調理されている現場から。

豊田：岡山・ホームレス支援きずなのスタッフ。最大の引き取り手で、食品を炊き出しなどに利用。活動は路上生活者の支援から開始。ここ数年は生活困窮者全般の支援も行う。高齢者の問題、障がい者の問題、母子の問題、DV の問題など、多様な問題があり対応に悩むことも増える。小さな団体なので、炊き出しの食べ物も困っていたので、その解決策としてフードバンクに参加したが、食べ物だけでなく、多様な分野の支援団体ともネットワークが広がったことはありがたい。

食べる事は人間の根源的な欲求を満たすこと。栄養や体の健康だけでなく精神面の安定にも重要な要因。そこから自立の意識というのが芽生えてくる。その人たちが「自立したい」と言ったときに、フードバンクという活動を通して、その後の支援の相談先がたくさん見えてきたことがありがたい。今後は、助けられる側が、助ける側にまわっていくということを、やっていきたい。

今、ボランティアとして炊き出しの料理のリーダーをしている方にお話していただく。

久田：本当に小さい団体ですので、どうしてもカレーとかですね。鶏肉しか入ってないという状況もあった。野菜をいただいて、人参がごつごつ入ったり、タマネギがたくさん入った甘みのあるカレーができた。それからサラダなど副菜も出せるようになり栄養価も UP、色合いも増え、定食のようになって、食べる喜びも増えた。そういった意味で、フードバンクの食品が大変助かっているという状況。個人としては食品メーカーの社員で、食品ロスをたくさん出しているので非常に複雑な気持ちもある。

土井：岡山市の自立援助ホーム、15～21 歳の男性の施設の責任者。いろんな施設を転々としてきた問題のある子どもたちも来る。岡山コープさんに毎週日曜日に野菜を取りに行き、施設の食事に使用。食というのは「愛情」、「心」につながる。時には人間関係のバロメータ。信頼関係ができないうちは、みんなで一生懸命つくっても「こんなん食えるか」とか捨ててしまう子どももいる。また、食事のことは、本当に詳細に、色まで覚えていたりして、食事というものの持っている強さを実感している。

今、施設から出た子どもたちが地域で困窮。中卒の子がアルバイトだと、一生懸命働いても、保険や年金を払って、家賃を払って、食費が月に１万円切るようなケースもある。そいう子どもが食べさせてって来ることもある。食材がないときには職員が買いに走ることもあったが、フードバンクのおかげでなくなった。卒所者に食事を提供することは、「依存」という視点からも問題があるかもしれない。ただ「そこに行けば何か食べられる」ということが、セーフティーネットの基本。食べられる、助けてくれる、声をだせる。そう

いった場所を続けて行くことが、セーフティーネットの裾野を広げ、また絆をつなげていくこととして重要。日曜日の食品運搬。計量、記録、片づけて、積み降ろしと、一人では大変。いつも施設の子どもたちが手伝い。この手伝い対しても、子どもたちが感じること、考えることもある。いつも手伝ってくれている山本くんに話をしてもらう。

山本（亮太）：フードバンクで野菜や果物やいろいろ一杯いただいて、食卓が色鮮やかになって、大元荘でより楽しく食事ができるようになる。肉だけでなく野菜がいっぱい食卓に並ぶようになる。果物はあまり食べなかったが、パイナップルなどをいただいたので、よく食べるようになった。フードバンク助かる。

糸山：今の「顔の見える団体のつながり」から、新たに受け取りを希望する団体や提供を希望する企業が増えていくなかで、それをどのように広げていくのかという意見が必ず出る。このことについてもアドバイスをいただきたい。

神崎委員長：これ以上組織を大きくしようとすると、やはり全体のコントロールやマネジメントがより重要な問題になってくる。例えば数字化ができれば、扱う食品の量だけでなく、運搬などで発生する労働の量とか、感じる幸せ、食品ロスの削減量とか、福祉費の抑制とか、より活動が見えやすくなるのでは。また例えば、公共政策とか農業経済の分野は、大学の中でも学際的で分野横断的な共同研究も盛ん。そういう分野の理論をベースに我々のやっていることをもう少し明示化する。数値化や理論化を通して活動を見えやすくできれば、企業さんもシステムやノウハウや人材等で協力しやすくなる。そうなると何か違ってこないだろうか。

井出：食品事業は、必ず食中毒とか食品事故とかを気にする。企業がつくるものが安全で、フードバンクが扱うものが危ないという先入観を持っていらっしゃる方もいる。ただ私がお答えするのは、顔の見える関係ほど食中毒はおこりにくいということ。おうちのご飯で食中毒は起こりにくい。食品メーカーに 14 年半勤めていたが、末端で食べているひとの顔がわからない。大量生産、大量消費ほど、事故が起こりやすいのでは。２ｈｊは、規模も大きくなり 2012 年の取扱量が 3152 トン。でも顔はみえる。食品企業の方々も定期的に会議に参加されるし、運んでいる施設だって顔がわかる。岡山さんがこれから大きくなるにしても、本当に顔の見える関係が、食品事故を防ぐという観点からも大事。

もう一つ、大学院の先生に言われたのは、仕事を形に残すことが大事。特に現場は、日々の仕事に流され、情報発信しようと思っても、ついついブログが滞ってしまうこともある。ただ、仕事を形に残すということは、毎日の積み重ね。

そして神崎先生もおっしゃったように、書面や論文で残すことについて、２ｈｊにも卒論やインターンで学生さんがたくさんいらっしゃる。学生たちが読む本がまだまだ少ない。

大原悦子さんの「フードバンクの挑戦」や広島の原田さんの書かれた論文などしかない。これから続いていく大学生とか、日本各地にもっとフードバンク団体が立ち上がり、参加する多様なひとたちに、例えば岡山さんが逆に先駆者としてアドバイスをする立場になるかもしれない。口頭で伝えるのも大切だが、文字、書面としていろんな形に残すことも大事では。

今、二つ目の大学院に通っている。大学で教えているのと同時に、自分も大学院生として学んでいる。私も形に残すというか、情報発信ということをやっていきたい。日本語だけじゃなくて、世界に発信するためには、英語で、また JIAC でフィリピンにいたのでタガログ語と、3 カ国語の論文を書きたい。

糸山：大変大きな示唆と、大きな夢をいただく。ありがとうございました。

3
フードバンク活動の
県外調査事業

3.1. フードバンク活動の県外調査事業概要

3.1.1. 調査の目的

本調査は 2013 年 10 月 16 日（水）に東京で開催されたフードバンクシンポジウム「日本のフードバンク活動の多様性」に参加し、全国のフードバンク団体と交流を行うことにより、今後フードバンク岡山がどのような運営形態を取っているのかと、企業のフードバンクとの関わりの現状を知り、今後フードバンク岡山がどのような運営形態で運営できるのかを検討するために実施した。

3.1.2. 調査対象と調査主体

(１)調査対象

東京・大阪・名古屋を中心とする都市部のフードバンクと、これまで活動している地方都市のフードバンク団体。またこれから立ち上げようとしているフードバンク団体。また、東京を中心とするフードバンクに関わりのある企業。

（２）調査主体

1	糸山智栄	フードバンク岡山　理事長
2	大森浩史	フードバンク岡山　事務局長
3	角野いずみ	フードバンク岡山　津山拠点事業責任者

3.1.3. 調査方法

各団体へのシンポジウム講演のまとめと、個別での運営形態についてのインタビュー。

3.1.4. 調査結果

（１）フードバンク運営主体の多様性

現在のフードバンク団体は個別で運営をしており、東京のセカンドハーベスト・ジャパンが支援を行ってきた。現在では 40 団体を超えるフードバンク団体が立ち上がっている。

東京などの都市部のフードバンクについては、企業からの寄付モデルにより運営が成り立っている状態である。また、山梨県については行政から生活困窮者に対する食事提供の要請を受けており、予算化されている特徴がある。また宮城県についてはみやぎコープが主体となっており、元々食品のロスの問題を企業自らがフードバンクとして解決している稀有な例であった。

それ以外の運営主体については２タイプに分かれている。１つ目は生活困窮者支援などの福祉制度と組み合わせており、支援者が自らフードバンクを実施している形である。もう一つが完全なボランティア団体として運営している状態である。いずれにしろ未だフードバンク自体での収益性というものは見込めないため、地方都市のフードバンクでの協議

が必要との意見が多かった。

（２）今後のフードバンク全体の体制について

現在フードバンク団体が全国で 40 団体を超えてきており、今後ますます食品の安全性等フードバンクに対する信頼性が必要となってきている。
そのため今後フードバンクの透明性と全国での継続性を高めるために、セカンドハーベスト・ジャパンアライアンスを立上げ、リスクマネジメントの管理を行うことになる。

（３）企業のフードバンクに対する協力状況について

ＣＲＭの取組について、寄付付き商品の説明がシンポジウム内で発表された。寄付付きだからと言って売上が伸びるわけではなく、何故寄付をするのか、その意識が消費者にどれだけあるのか、また社会がその問題に対して盛り上がっているのかによって効果が違うとのことであるが、直接お手紙をくれるお客様が存在し、消費者とのコミュニケーションが取れるというメリットが企業側にはあった。

次にシャングリラホテル東京様よりお話があり、食品衛生面の支援をセカンドハーベスト・ジャパンに実施しているとの報告があった。多くのフードバンク団体はホームレスへの炊き出しを行うため、今後岡山でも食品寄付ではないＣＳＲ活動として企業へご協力戴く事ができるであろう。フードバンク基準の統一、安全性の確保、政策提言、フードライフラインの構築、フードセーフティネットの構築を行っていく。また各地方のフードバンクへ助成が出来る制度を作り、ハード面の整備などを行っていく方針である。

3.1.5. まとめ

フードバンク岡山は、現在完全なボランティアとして事業を行っている段階である。今のところフードバンク事業自体に行政の予算化が見込めないため、自己事業として運営費の確保を行う事業を組み立てなければならない。そのため今回の調査で①企業へ許可をとり、食品の販売も視野に入れる②他の困窮者支援制度と組み合わせた事業の実施③募金やボランティアを主とした運営、の３種類の道があることが分かった。基盤整備については農林水産省のサポートが今後も見込めるため、人件費の確保が当面の課題である。

4

岡山県全域における
フードバンク活動のための
基盤整備事業

4.1 法人化事業（特定非営利活動法人）

2013 年 8 月 23 日に実施した特定非営利活動法人フードバンク岡山設立総会の様子

4.1.1. 趣旨と経緯

フードバンク岡山は、2012 年 3 月に設立準備委員会を立ち上げ、同年 11 月 15 日に任意団体として活動を開始した。岡山での活動が徐々に広がるなか、運営の継続性や対外的な信頼度の向上が課題となる。そこで任意団体役員を中心に外部識者を加え、法人設立準備会を立ち上げた。準備会では法人形態、設立趣意書、定款など設立に必要な書類の作成、設立総会の準備等を行った。8 月 23 日に設立総会を実施。12 月 10 日に岡山市より特定非営利活動法人の認証を受け、12 月 16 日に登記を完了した。

4.1.2. 法人設立準備会メンバー

井上雅雄	フードバンク岡山監事	弁護士
◎大森浩史	フードバンク岡山副理事長兼事務局長	NPO 法人杜の家
三田善雄	フードバンク岡山理事	みた農園
糸山嘉彦	外部識者	NPO 法人子ども劇場岡山県センター

◎準備会リーダー

4.1.3. 特定非営利活動法人設立準備会の実施概要

	日時	場所	議題
第１回	5 月 14 日 20:00～21:00	岡山大学インキュベータ ２F 会議室	・法人種類の検討
第２回	6 月 11 日 20:00～21:00		・役割分担 ・法人化スケジュール
第３回	7 月 5 日 20:00～21:00		・設立趣旨の比較検討 （参照：資料①） ・必要書類、手続き等確認 ・会員制度比較検討
第４回	7 月 16 日 20:00～21:00		・定款及び書類内容確認 ・招待状送付
第５回	8 月 7 日 20:00～21:00		・設立総会実施最終確認

4.1.4. 法人設立準備会特別研修会の実施概要（参照：資料②）

日時：2013 年 7 月 5 日　19:00～20:00

場所：岡山大学インキュベータ２F 会議室（岡山県岡山市北区津島中 1-1-1）

講師：糸山嘉彦氏（NPO 法人岡山 NPO センター副代表理事／NPO 法人子ども劇場岡山県センター事務局長）

4.1.5. 設立総会の実施概要

日時：2013 年 8 月 23 日(金)19:00～21:00

場所：岡山大学インキュベータ２F 会議室（岡山県岡山市北区津島中 1-1-1）

審議事項：

(1)　議長選任の件
(2)　議事録署名人の選任の件
(3)　設立趣旨に関する件
(4)　定款に関する件
(5)　入会金及び会費に関する件
(6)　平成２５年度及び平成２６年度の事業計画並びに活動予算について
(7)　役員及び報酬に関する件
(8)　設立代表者の選任について
(9)　事務所の所在地について

参加者 19 名

参加者所属団体一覧：

1	NPO 法人あいあいねっと
2	アベサイクル
3	(株)えくぼホームヘルパーステーション
4	NPO 法人おかやま入居支援センター
5	NPO 法人岡山・ホームレス支援きずな
6	岡山 YMCA
7	NPO 法人オレンジハート
8	NPO 法人子どもシェルターモモ
9	一般社団法人チカク
10	(株)廃棄物工学研究所
11	ハーモニーネット未来認定 NPO 法人子ども劇場笠岡センター
12	NPO 法人ふれあいサポートちゃてぃず
13	みた農園
14	NPO 法人ミニコラ
15	NPO 法人杜の家
16	NPO 法人リスタート

資料①：設立趣意比較検討資料

NPO 法人 あいあいねっと	今、私たちが暮らす地球は「温暖化」という深刻な危機に直面しています。また、私たちの日々の暮らしも「健康」とはいい難い危機的状況にあります。私たち「あいあいねっと」は、この危機的状況を改善するひとつの方法として、持続可能な循環型社会の実現を目指しています。すなわち、潜在的に存在する人や食などの地域資源の縁を結ぶしくみを構築し、限りある資源を有効活用し地球環境を守り、誰もが尊厳をもって「その人らしい」生活を営むことのできる地域づくりを進める活動を行います。 特に、現在、日本の"食の現場"で行われている余剰食品の大量廃棄＝まだ食べ物としての役割を担えるにもかかわらず、大量の食品が、生産過剰、包装時の損傷や賞味期限切れが迫る等の理由で、食品業者によって廃棄されていることに着目し、これらの食品が産業廃棄物処理場で焼却され、二酸化炭素を排出し、地球温暖化の一因となっているという現状の改善を目指します。そして、このような"食の現場"とは対照的に、社会福祉法人の施設の多くが公費による助成の削減で苦しい経営を余儀なくされ、また、生活困窮者に対して食事提供している非営利活動団体は、景気低迷による寄付の減少等によって食材調達のための経費の捻出が困難になっている不条理の克服にも挑戦します。すなわち、私たち「あいあいねっと」は、上記の両者を結び、食品生産者、卸業者、小売業者、個人、あるいは行政組織から余剰食糧を寄贈していただき、社会福祉施設及び助力を必要とする人達に無償で食事提供をしている非営利活動団体にそれらの食材を無償で分配する『フードバンク事業』を核にした地域づくりを展開します。 私たちの活動が地域に一つの仕組みとして定着し、人と人、食と食との縁を結び、地域内の生活弱者を支える活動に邁進します。あわせて社会福祉の増進を図り、心豊かな街づくりを目指してまいります。
NPO 法人 セカンドハーベスト・ジャパン	セカンドハーベスト・ジャパン（2HJ）は、日本でのフードセーフティネットの構築を目的とし、児童養護・母子支援・障害者支援等の福祉施設や生活困窮者などに食品の提供を行っています。フードセキュリティ[1] に欠く人々に充分な食べ物を提供するため、2HJ は食品企業などと連絡を取り合い食を通じた新しい社会作りを目指しています。 [1] フードセキュリティ：日常生活を送る為に、安全且つ栄養のある充分な食べ物を適切な手段により得られること。
NPO 法人 フードバンク山梨	世界では、飢餓で苦しむ人々は８億人以上と言われ、３秒に１人の子どもたちが５歳未満で命を落としています。さらに世界の食糧危機は地球温暖化や穀物のバイオエネルギー化によって深刻さを増しています。 日本の自給率は４０％と先進国の中でも際立って低いにもかかわらず、食料廃棄量は年間 2200 万トンで、国民１人１日当たりほぼ１食分が廃棄されている事になります。消費者は箱の少しつぶれたものや形の悪い野菜、賞味期限の近い食品について過剰と思える完璧さを求めています。その過剰な完璧さの為に膨大な無駄が生じ、まだ食品として十分食べられる物まで廃棄されている現実があります。 フードバンクはその様な食品を、企業から寄付してもらい、必要としている福祉施設や団体に届ける活動です。企業は廃棄コストの削減となり、地域の社会貢献にもつながり、施設や団体は食材の支援で、浮いた食費を本来の活動に使うことが出来ます。「もったいない」発祥の国として、子どもたちの未来に、食糧が無駄なく消費され、誰もが食を分かち合える社会にしていく為フードバンク山梨を設立することとなりました。 フードバンク山梨は県内の児童養護施設や障害者通園施設などに県内外企業からの提供食品を譲り受け配布するシステムの構築を目指し活動を推進して行きます。 また山梨ならではの農産物におけるフードバンク活動も充実できるのではないかと考えます。
NPO 法人 ふうどばんく東北 AGAIN	食は命です。 食べることが生命を繋ぎ、安定した食糧の存在が争いを無くし、正しい食物連鎖が地球環境を守り、食べ物をもったいないと慈しむ心が人の暮らしを豊かにします。 東北には本来、自然の恵みに感謝して、"あがいん"（どうぞおあがりください、お召し上がりください）の精神で、食べ物を譲り合い、助け合う風土がありました。 しかし今、命である食に困っている人々が身近にいます。雇用と同時に住居も失った方や一人暮らしの高齢者、障がい者、家族の暴力から逃げてきた人等、他人事ではありません。その一方で、おいしく十分に栄養価値のある食べ物が、規格外や余剰生産、賞味期限が近いといった理由から毎日廃棄され続けています。 この歪んだ現状を危惧し、もどかしく思いながら私たちは、それぞれの立場から、それぞれの危機感と目的と、自分が何かに役立てることへの希望を持って集まりました。 価値があるにもかかわらず廃棄処分されそうな食べ物を無償で提供してもらい、責任を持って点検・整理して、生活困窮者へ届ける活動を行います。 私たちはこの活動を通して、一人一人の暮らしを保障するセーフティーネットの一隅を担います。 食べられるために育まれた食品を、きちんと食べて消費します。廃棄物を減らし、二酸化炭素排出を抑えて、微力でも地球環境を守ります。この地域で作られた食べ物を大切に受け取り、この地域で困っている人へ大切に届けることで、地域を優しく結びつけます。共に働く仲間に公正な対価を支払い、安定した雇用を創り出します。ひとりひとりが分かち合い、支え合い、相互扶助の心を行動で示します。これらの活動を知ってもらうことで、食べ物の大切さ、人と人の助け合いを子どもたちに伝えます。 私たちのフードバンクは、食べ物の、人の、地球の命を大切に貯蔵します。そして、私たちが先人から受け継いできた"あがいん"の精神で、食べ物の橋渡しをします。 私たちは、ここ東北の地で、この目的を達成するために「ふうどばんく東北 AGAIN」を設立します。

NPO 法人 フードバンク 山形	かつて日本の原風景の中に、あたりまえのようにあった「物を分け合う心」・・・。 それは、お互いを助け合うことで、 貧しい者たちが、共に笑って暮らしている社会でした。 貧しいがゆえに分け合う その優しさがこの日本には息づいていたのです。 食うや食わずの生活の中でも、人々は優しく、そして逞しく生きていました。 しかし、現在、 日本には物や食料が満ち溢れ、 必要以上の食糧摂取すら問題視される時代となりました。 消費を美徳とする風潮が社会を覆っています。 その陰で餓死する人がいる日本・・ ・。 貧富の格差が開き続ける中・・ ・「分け合う心」が忘れ去られているのです。 そして人々は、溢れんばかりの物資に囲まれ、幸せを感じていません。 現在、日本人の幸福度は、世界のランクで下位の方にあります。 小さく貧しい国ブータン・・・・ＪＮＰは日本の足元にも及びません。 でも、この国の幸福度は日本の比ではなく高いのです。 かつての日本にあった「分け合う心」が息づいているような気がします。 人に優しくすれば、自分も幸せになれる・・・・人間はそういう風に出来ている存在なのでしょう。 私たちフードバンク山形は、 「分け合う心」をこの地から発信し、日本中に息づかせたいと思っています。 この「まほろばの里」が、そして、私たちの国ー日本が、 幸せな笑顔で満ち溢れる日がきっと来る・・・ フードバンク山形はそう信じます。 遠い道のりかも知れません。 でも、その日に向かう歩み続けて行こうと思います。
NPO 法人 フードバンク 岡山	フードバンクは、これまで無駄になっていた「たべもの」と、それを必要とする「ひと」をつなげる活動です。 缶のちょっとしたへこみ、備蓄食品の入れ替え、特売の売れ残り、収穫できない野菜、つい買い過ぎた食材など、賞味・消費期限内にもかかわらず、さまざまな理由で捨てられる食品と、捨てることに悩む企業や家庭があります。その一方で、障害をもつ、高齢である、思わぬアクシデントに巻き込まれたなどの理由で、その日の食べものも十分でない状態で暮らす方々が少なからず存在します。 農林水産省が 2012 年に発表した日本の食品ロス（本来食べられるのにもかかわらず捨てられている食糧）の年間総量は 500～800 万トンで、これは日本のお米の収穫量の約 800 万トンとほぼ同じです。一方で、わが国で貧困状態を余儀なくされている人は約 2000 万人、6 人に 1 人もいるという厚生労働省の推計もあります。 私たちフードバンク岡山は、まだ十分食べられるのに市場価値を失ったり、余ったりしているたべものを企業や個人から寄付してもらい、それを必要とする福祉施設や団体に届けることで、私たちが暮らす地域の社会面、経済面、環境面における多様なリスクを軽減していきます。 また、私たちが岡山でフードバンクを始めてから、「たべもの」を通じて、地域にはいままでになかった形での「ひと」と「ひと」とのつながりが生まれています。 精神に障害をもちながら安全な食品を家庭に届ける「ひと」。頼れるまちの自転車屋さん。児童養護施設のこどもたち。こだわりのイチゴ農家さん。日々若者のサポートに奔走する「ひと」。ほんの最近母親になった「ひと」。地域社会に献身する研究者。母子の悩みをしっかりと聴き支える「ひと」。専門技術を習得するために日本にやってきた「ひと」。地域社会の安定したエネルギー供給を守る「ひと」。懸命にホームレス状態から抜け出そうとする「ひと」。 わたしたちの社会には、福祉・環境・教育等の多様な分野に、NPO・大学・行政・企業・個人などの多様な形で関わる主体（ひと）がいます。フードバンクは、異なるバックグラウンド、多様な価値観をもつ「ひと」たちが、これまで培ってきた助け合いの仕組みをベースに、命の糧としての「たべもの」のやり取りを通じて、新たな工夫をつくり出す場でもあるのです。 私たちフードバンク岡山は、これまで無駄になっていた「たべもの」と、それを必要とする「ひと」とをつなぐことにより、社会面、経済面、環境面における多様なリスクを軽減するとともに、ここに暮らす多様な主体をつなぎ直し、その歴史を土台に新たな協働の文化を生み出すことで、地域社会のよりいっそうの成熟に貢献していきます。

資料②：法人化特別研修会資料

特定非営利活動法人（NPO法人）の設立に関する確認事項

2013.07.05

Y.Itoyama

NPO法人とは

- 発起人（＝役員＆正会員）で、法人化と、その形態は合意できているか？

特定非営利活動法人（＝NPO法人）
を選んで法人化する意味

早いうちに 「認定NPO法人」に
→寄付控除（個人・法人・相続財産）
みなし寄付

法人設立において最初に確認

1 名称（定款第1条）
2 代表者の氏名
3 主たる事務所の所在地（定款第2条）
4 その他の事務所の所在地（あれば）
5 目的（定款第3条）
6 事業内容（定款第4条）

＝以上はすべて「登記事項」

所轄庁申請に必要な書類

(1) 設立認証申請書
(2) 定款
(3) 役員名簿（氏名、フリガナ及び住所又は居所、生年月日）
※住民票通りの漢字、地番部屋番号表記を！）
(4) 各役員の誓約書兼就任承諾書（謄本）
(5) 社員のうち10人以上の者の氏名及び住所を記載した書面
(6) 確認書
(7) 設立趣旨書
(8) 設立についての意思の決定を証する議事録の謄本
(9) 設立当初の事業年度及び翌事業年度の事業計画書
(10) 設立当初の事業年度及び翌事業年度の活動予算書

申請のために確認しておくこと

- 社員(＝正会員) 10人以上
- 役員
- 事業計画（2事業年度分）
- 活動予算（2事業年度分）
- 事業年度（定款47条）

⇒4月～3月でいいか

- 会員の種類と会費額（定款附則）

法人設立までの流れ

- 設立総会 8月 日
- 設立認証申請(所轄庁は岡山市) 8月
- 設立登記準備
（登記書類作成、印鑑準備）
- 認証 12月
- 設立登記申請（法務局） 12月
- 設立登記完了届（所轄庁） 12月

4.2. 会員制度整備事業

4.2.1. 趣旨と経緯

岡山でのフードバンク活動の広がりと活動自体の持続性の向上には、参加しやすい会員制度が不可欠である。そこで本事業では、前項の法人設立事業と平行しながら、他フードバンク団体の諸会員制度の比較検討や識者からの助言等を参考にしながら、会員制度の設計をおこなった。

4.2.2. 会員制度検討委員会の実施概要

	日時	場所	検討内容
第１回	6 月 11 日 19:30～20:00	岡山大学インキュベータ ２F 会議室	・会員制制度の位置づけ ・検討方法
第２回	7 月 5 日 19:30～20:00		・会員制度比較検討 （参照：資料③）
第３回	7 月 16 日 19:30～20:00		・会員制度の決定 ・会員募集方法

4.2.3. NPO 法人フードバンク岡山会員制度概要及び会員数

会員制度概要（※年度：4 月 1 日～3 月末）

会員種類		金額	対象者
正会員(社員)	個人	5,000 円（一口）	役員、発起人
正会員(社員)	団体	10,000 円（一口）	地域拠点、役員及び発起人所属団体
賛助会員	個人	3,000 円（一口）	一般個人（提供、受取り団体関係者）
賛助会員	団体	5,000 円（一口）	食品提供団体、（食品受取り団体）

会員数(※2014 年 2 月 28 日現在)

会員種類		口数
正会員(社員)	個人	9
正会員(社員)	団体	7
賛助会員	個人	1
賛助会員	団体	1

資料③：会員制度比較資料

1）会員制度と会費比較

	正会員(社員・会費)		賛助会員（寄付）		その他
	個人	法人	個人	法人	
A 団体	10,000 円		1,000 円	10,000 円	
B 団体	入会金 2,000 円 年会費 3,000 円		3,000 円	一般：10,000 円 非営利:5,000 円	
C 団体	5,000 円	10,000 円	3,000 円	5,000 円	特別法人会員 １万・３万・５万
D 団体	5,000 円		1,000 円	10,000 円	
E 団体	5,000 円	20,000 円	3,000 円		
F 団体	3,000 円		2,000 円	10,000 円	
岡山案①	5,000 円	10,000 円	3,000 円	10,000 円	※サポーター制度
岡山案②	3,000 円	5,000 円	3,000 円	10,000 円	

2）会員区分説明事例

会員区分	会員区分説明例
正会員（個人）	会員総会の議決権がある会員です。広報誌を年 10 回送付します。
正会員（団体）	会員総会の議決権がある会員です。広報誌を年 10 回送付します。
賛助会員（個人）	会員総会の議決権がありません。したがって**この会費は寄付とみなされます**。いわば定期寄付と言ってもいいでしょう。本会は認定ＮＰＯ法人のため、賛助会費にも所得控除が受けられます。正会員はどうも荷が重いという方も、賛助会員でぜひお支えください。広報誌を年 10 回送付します。

4.3.フードバンクを協働で実施する団体の運営マニュアル整備事業

4.3.1. 趣旨と経緯

岡山県内では、各地域で中核的にフードバンク事業を実施する団体が、拠点事業実施団体として協働しフードバンク活動を実施している。現在、岡山地域で 3 団体が、津山、笠岡地域でそれぞれ 1 団体が拠点事業を実施している。今後の県内でのフードバンク活動の広がりに備え、各拠点事業の実践経験を踏まえた運営マニュアルを整備した。

4.3.2. 運営マニュアル整備検討会の実施概要

	日時	場所	検討内容
第 1 回	9 月 17 日 19:00～20:00	岡山大学インキュベータ会議室	・マニュアル作成全体工程の検討 ※第 1 回運営協議会内
第 2 回	10 月 10 日 20:00～21:00		・セールスフォース入力マニュアル作成検討
第 3 回	11 月 12 日 20:00～21:00		・セールスフォース入力マニュアル（案）検討
第 4 回	12 月 10 日 20:00～21:00		・衛生管理マニュアル作成検討
第 5 回	1 月 14 日 20:00～21:00		・衛生管理マニュアル（案）検討
第 6 回	2 月 12 日 20:00～21:00		・拠点運運用マニュアル作成検討
愛 7 回	3 月 11 日 20:00～21:00		・拠点運営マニュアル（案） ・セールスフォース入力マニュアル（案） ・衛生管理マニュアル（案） 印刷前：最終内容検討

4.3.3. 運営マニュアル概要

（1）記載項目

拠点運用マニュアル
1.フードバンク岡山
2.フードバンクの仕組みについて
3.食品提供運用フロー
4.利用者にお守りいただくこと
5.問題発生時のフロー

６.その他 ７.よくある問い合わせ 　資料１　「利用案内書」に関する確認書 　資料２　「同意書」
フードバンク岡山衛生管理マニュアル
１.食中毒とは ２.食中毒予防の心得 ３.食中毒予防の 3 原則 ４.災害時
セールスフォース入力支援マニュアル
１.セールスフォースとは ２.フローチャート ３.解説

（２）作成部数：50 部

（３）配布対象：県内拠点事業実施希望団体

4.3.4. 作成上の創意工夫

衛生管理マニュアルとセールスフォース入力支援マニュアルを別の章立にすることで、より目的に応じた利用に対応できる。図、写真などを多く使用し、各団体のフードバンク事業担当者の利用しやすさも考慮した。

4.3.5. 期待する効果

今後、県内でフードバンク活動に参加する団体が増えることを前提に、フードバンク活動への総合的な参加が必要な拠点事業だけではなく、食品提供事業や食品運搬事業などフードバンク活動に部分的に参加する団体への説明にも利用することで、より円滑なフードバンク活動の実施への効果を期待する。また、マニュアルの共有は、参加団体の既存事業の客観化にもつながり、フードバンク活動の拡充とあわせて岡山全域のセーフティーネットの充実に寄与するものと考える。

4.4. パンフレット作成事業

4.4.1.　趣旨と経緯

岡山県ではフードバンクの認知度がまだ少なく、困ったときにすぐアクセスできる方法がフードバンクのことを知っている支援者からの紹介と限られたものとなっている。
そのため県内の相談窓口等にパンフレットを配布し、生活に困った方からの問合せや、支援者への周知を行い易くすることが目的である。

4.4.2. パンフレット作成日程

平成 25 年	12 月上旬	パンフレットの全体デザインの打ち合わせ
	12 月下旬	イラストレーターに依頼し、イラストの作成
平成 26 年	1 月上旬	パンフレットの全体デザインの作成と更正
	2 月上旬	パンフレット完成、関係機関へ配布

4.4.3. 作成部数

5,000 部

4.4.4. 作成上の創意工夫

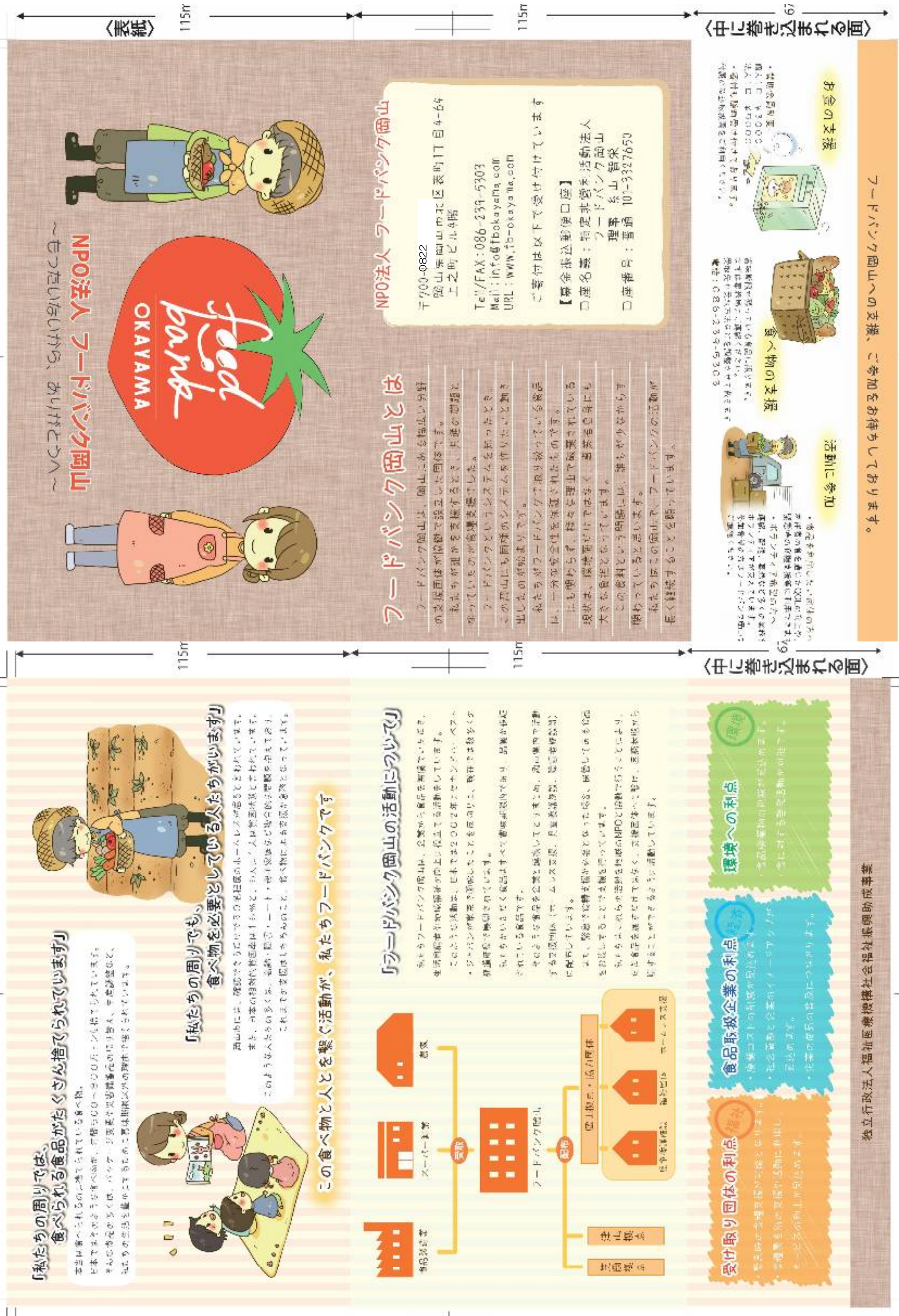
フードバンクというと生活困窮者支援がまず初めに思い浮かぶが、岡山県では学童保育の団体とも連携しており、食育にも多く利用している背景から、子ども達でも気軽に手に取れるようイラストと明るい色合いにした。またサイズを大きめの３つ折りにすることにより、郵便の寄付振込用紙が入るサイズに調整したため、パンフレットを渡すと同時に寄付のお願いが出来るように工夫している。

また、このような環境問題や食の問題に意識の高い方というのは女性が多いため、パンフレットがハンドバッグに入り、折り目がつかないという理由で３つ折サイズとした。

4.4.5. 配布予定対象と期待する効果

手に取りやすいデザインにしたことにより多くの方に知って戴き、サポーターを増やすだけでなく、地域で困った方を見つけた際にはフードバンクを紹介するという「地域住民で支えあう」事が出来るようになるのが最終的な期待である。

資料④：パンフレット校正データ（最終版）



4.5. クラウドを利用したフードバンク在庫管理システムの指導

【写真】モバイル（iPad）を使用したクラウドシステムの指導風景（笠岡地域拠点にて）

4.5.1. 趣旨と経緯

フードバンク岡山のミッションの一つは、岡山県全域でフードバンク活動の実施を希望する団体が、円滑に活動を実施できる環境整備を行うことである。そのためには広域でのより効率的で安定的な食品管理システムの運用が不可欠となっている。これまで、一部団体の活動を中心に、クラウドサービスのセールスフォースを使用し、在庫情報を管理及びトレサビリティの残るシステム開発を実施してきた。本事業では、これまでの蓄積をベースに、より多くの団体が食品管理システムに参加できるよう、データベース開発担当者が各地域の拠点団体及び中核団体の担当者に対して指導を行った。

4.5.2. クラウドサービスの概要

フードバンク岡山で使用しているSalesforceは、(株)セールスフォース・ドットコム が提供する、クラウド型のSFA（営業支援）・CRM（顧客管理）アプリケーションである。これは営業支援やカスタマーサービスといったアプリケーションを、Webブラウザを介してどこからでも利用できるサービスで、本会では、フードバンク食品の管理システムとしてカスタマイズしながら使用している。また、セールスフォース・ドットコム ファンデーションが一定の基準を満たす非営利団体に対して実施する Power of Us 製品プログラムにより、本クラウドサービスを寄贈及び割引提供しており、本会もこのサービスを利用している。

4.5.3. 各地域での指導概要

（１）検討会

各地域での研修会の担当、マニュアル作成

日時：9 月 17 日（火）17:00～18:00

場所：岡山大学インキュベータ２Ｆ会議室
（岡山県岡山市）

参加者：７名

（２）岡山地域

①	NPO 法人杜の家	11 月 14・15 日	2 名	事業担当者 1 名、FB 岡山理事 1 名
②	NPO 法人ミニコラ	１月 16・17 日	3 名	事業担当者 1 名、団体スタッフ 1 名 FB 岡山理事 1 名
③	NPO 法人岡山･ホームレス支援きずな	１月 23・24 日	3 名	事業担当者 1 名、団体スタッフ 1 名 FB 岡山理事 1 名

【共通】

場所：各団体事務所（岡山県岡山市）

時間：10:00～12:00

講師：講師：安部俊幸氏（FB 岡山システム担当）

（３）津山地域

日時：2 月 20・21 日 10:00～12:00

場所：NPO 法人オレンジハート津山事務所
（岡山県津山市）

講師：安部俊幸氏（FB 岡山システム担当）

参加者：2 名

【内訳】

NPO 法人オレンジハート：事業担当者 1 名

フードバンク岡山：理事 1 名

（４）笠岡地域

日時：2 月 27・28 日 10:00～12:00

場所：ハーモニーネット未来認定 NPO 法人子ども劇場笠岡センター（岡山県笠岡市）

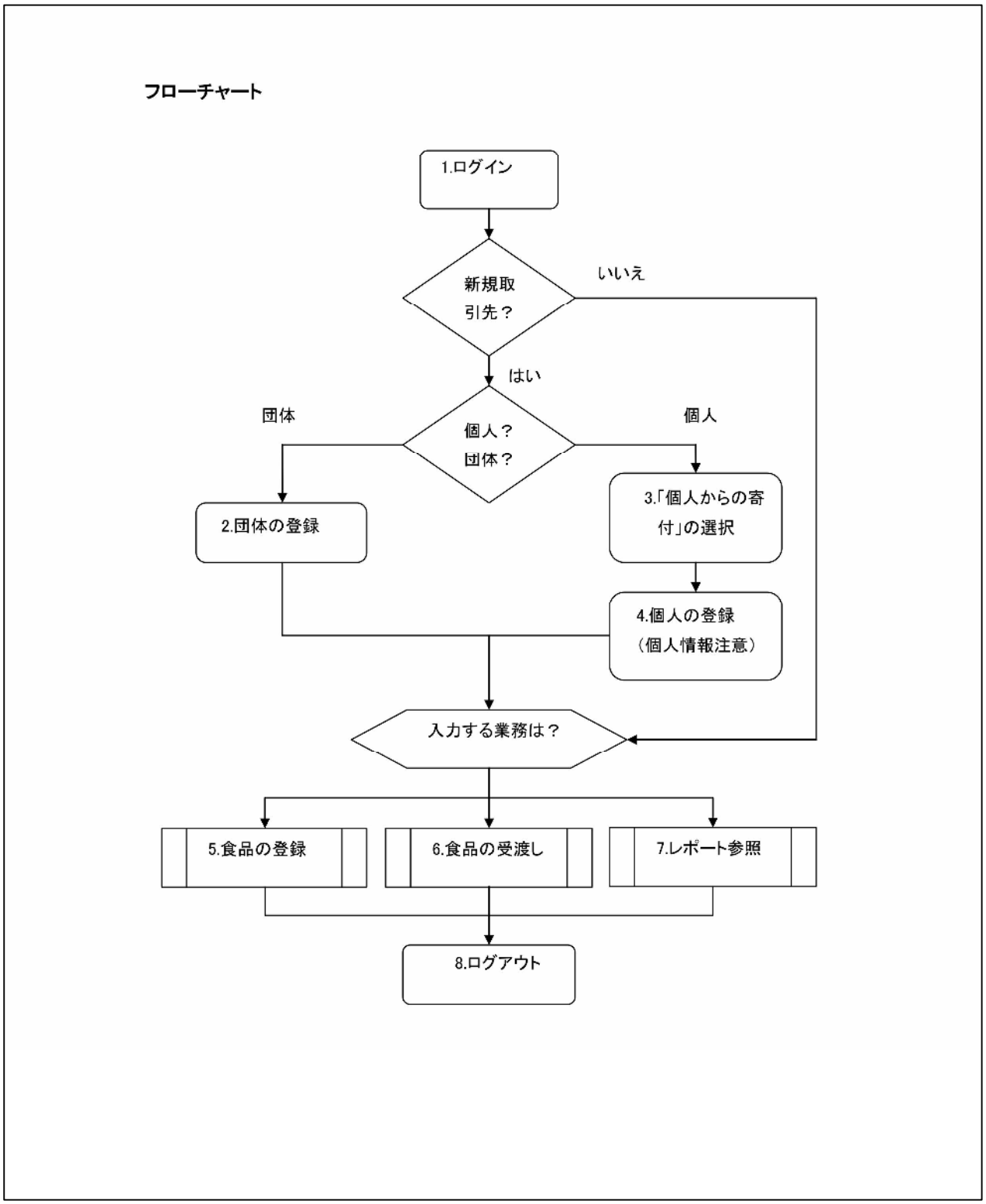
講師：安部俊幸氏（FB 岡山システム担当）

参加者：3 名

ハーモニーネット未来認定 NPO 法人子ども劇場笠岡センター：副理事長、事業担当者各 1 名

フードバンク岡山：理事 1 名

資料⑤：Salesforce 入力フローチャート（FB 岡山 Salesforce 入力支援マニュアルより抜粋）



資料⑥：Salesforce 管理画面（FB 岡山 Salesforce 入力支援マニュアルより抜粋）

<u>各項目を入力</u>

受付日（必須）：　受付日を入力（カレンダーから選択でも可）

賞味期限（必須）：　不明な場合は受付日より１週間程度

提供団体（必須）：　団体の場合は団体名を選択、個人の場合は【個人からの寄付】を選択　**※「提供者」の入力の前に選択すること**

提供者：　団体の場合は担当者、個人の場合は個人名もしくは【匿名】を選択

保管する団体名（必須）：　保管する団体名を選択

寄贈理由：分かる範囲でできるだけ選択

寄贈食品名（必須）：寄贈された食品名をできるだけ具体的な名称で

提供数量（必須）：　提供された食品の数量を入力

単位：　提供された食品の単位を入力

※解説※
提供された食品を、受取団体に引き渡す際の最小単位での入力としてください。

例１　ジュース　1箱25本入り100箱　1本100g　1箱2.5kg　総重量2500kg

必ず1箱単位で渡すなら	1本毎に小分けするなら
提供数量：100	提供数量：2500
単位：箱	単位：本
単位重量：2.5	単位重量：0.1

例２　米　3袋 1袋当たり30kg 総重量90kg

必ず1袋単位で渡すなら	kg単位で渡すなら	g単位で渡すなら
提供数量：3	提供数量：90	提供数量：90000
単位：袋	単位：kg	単位：kg
単位重量：30	単位重量：1	単位重量：0.001

※米・野菜の場合はkg単位を推奨。
※「提供数量」×「単位重量」が「総重量(kg)」となります。

単位重量（kg/単位）：上の単位当たりの重量を kg で入力

飲料品：　飲料品の場合はチェック

在庫終了・在庫数量：　システムで使用

入力が終わったら「保存」ボタンを押してください。

5

岡山全域における
フードバンク活動推進事業

5.1. 岡山地域でのフードバンク活動

5.1.1. 地域拠点事業実施団体概要

団体名称	ＮＰＯ法人杜の家
活動目的	この法人は、障害者自立支援法に基づき、就労継続支援事業、地域活動支援センター等事業を農業分野を通じて行うことにより、障がいを持っている方と、持っていない方が支え合い充実した生き方ができ、障がい者の自立を促進するとともに、新しい農業の実現を目指す他、地方自治体や他ＮＰＯと協働し、農地保全や、地域の活性化に寄与することを目的とする
実施事業概要	障害者自立支援法に基づく、就労継続支援Ａ型事業所。 主に軽度障がいの方を対象とし、イチゴと葉物野菜を中心とした、就農を視野に入れた就労支援を実施。 また必要に応じて企業への就労体験や、農業分野の研修会への参加、販売イベントへの参加なども随時実施。

5.1.2. 活動概要

（１）フードバンク食品取扱量（2013 年 1 月～12 月実績）

種類	重量（kg）
野菜・かんきつ	１４，５２８
穀類・穀物加工食品	５８１
レトルト食品	６９
パン類	３０６
菓子類	６１
めん類	５
調味料	３９５
清涼飲料	４，６２０
その他の食料品	１，５３８
合計	２２，１０３

おかやまコープ農産センター提供の生鮮食品

個人からの寄付（フードドライブ）

（２）受取団体数：49 団体

ホームレス支援団体、DV 被害者支援団体、被虐待児童支援団体、障がい者支援団体、相談窓口設置団体、児童施設、児童授産施設、学童保育施設等

（３）提供団体（個人）数：13 件（8 企業、他個人農家、県外フードバンク団体等）

5.1.3. 活動経緯と実施方法

・ 受渡先の分類について岡山拠点が受渡している団体については大きく３種類に優先順位を分けている。まず最も優先順位が高い団体として、ホームレス支援団体やシェルター、地域の相談支援事業所などの生活困窮者の緊急支援窓口が中心となっている。これらの団体は緊急時の対応も多く、生死に関ることも多いために絶えず食品が流通できる体制にしている。次に優先順位が高いのが地域の障がい者支援団体や児童養護施設など、食品を利用することによってサービスをより充実させることのできる団体である。特に障がい者支援団体は就労支援という形で配達業務等を行っている団体もあり、食品を配布していただくと同時に、必要としている団体の情報共有や支援体制の検討等を行っている。

・ 最後にお渡ししているのが、学童保育など地域で食育や様々な啓発活動を行っている団体。食品の量の関係でお渡しすることは少ないが、地域の方々にフードバンクの活動を知っていただくためにも、一度に大量の食品の寄付申し出があった際には連携し、食品の啓発活動を推進している。このように受渡先を分類し、必要な人に対して必要な量の食品を受け渡せるような体制にしている。

・ 食品の管理について：食品流通管理については、岡山市内の中心団体と各拠点が連携をして行っている。現在の取り扱いは常温保存品と野菜が中心となっているため、迅速に配送することが求められている。これを受けて現在は週サイクルで食品の配送先を予め決定し、ボランティアの手によって配送を行っている。また活動を行うにつれて冷蔵食品の寄付依頼も増えてきていることもあり、このたび冷蔵庫とクーラーBOXの整備を実施した。これにより、これまで扱えなかった冷蔵食品の配送が可能となり、すぐに食べられる食べ物が配送出来る体制になっている。また、中国電力株式会社様より備蓄食品を寄付して戴いている。これらの食品は保存場所も問わないため、生活困窮者支援の窓口となる場所に予め置かしていただき、緊急時にはすぐに食品を提供できるシステムにしている。

5.1.4. 地域のセーフティーネットへの波及効果

・ 緊急時の対応について：岡山拠点で最も連携を行っているのは、緊急時の対応を行っている団体。具体的には生活困窮者支援窓口となっている岡山市社会福祉協議会の「岡山市寄り添いサポートセンター」、ホームレス支援団体、相談支援事業所や地域活動支援センターとなっている。これらの団体には明日食べる物がないという方が訪れるため、緊急時にはすぐに食品を提供し、生活再建を図るツールとしてフードバンクを利用している。

・　障害福祉分野との連携について：障害福祉分野の総合相談窓口である相談支援事業所や地域活動支援センターとの連携を現在進めている。この背景には、働けず食品の支援が必要な方の多くは何らかの障がいを抱えている事が多く、食品の支援だけでは根本的な原因が解決しない事が挙げられる。そのためお問い合わせ戴いた段階からその理由と通院状況を確認して、近隣の障がい福祉団体を紹介するようにしている。また、緊急の訪問が必要と認められるときはホームレス支援団体に連絡し、訪問ができるようにしている。

5.1.5. 事例紹介（食品提供以外での活動事例等）

・　就労支援・ひきこもり支援団体の連携：障がい者やニート・ひきこもり支援の団体と連携を行い、職業体験としてフードバンクを利用している。フードバンクの活動を通じて、「ありがとう」と声をかけていただくことにより自己肯定感を持ち、一般就労への意欲を高めるようにしている。現在は配送業務だけとなっているが、今後はより細かな業務についても連携を深めていく予定。

・　公民館や地域の支援団体での講演：岡山拠点では公民館の市民講座にて合計６回の講演を実施した。また個別で７団体からの講演等の依頼を受け、のべ９回の講演等を行った。参加者の多くは50代以上の方々だったが、捨てられる食品が「もったいない」というのは日頃感じていた様子で、フードバンクを通じて改善されるのであれば期待したいとの意見もあった。その中にはボランティアを希望する方も多く、今後の食品流通のきっかけとなった。

・　横断的な団体同士での支援連携：フードバンク岡山に所属する団体は障害者支援・高齢者支援・子ども支援・ホームレス支援・ニートひきこもり支援と、現在制度で分けられている福祉分野のほぼ大半を占めている。これらのネットワークを通じて、これまで得ることのできなかった情報や、家族支援が必要となった際の横断的な対策などを迅速に行うことができるようになり、支援の幅が大きく広がることとなった。

5.1.6. 課題と展望

・　倉庫の整備：岡山市内は食品の流通量が多いため、一時保存場所の確保が急務となっている。保存が可能となれば食品の偏りが減るため、栄養改善も考えた食品提供が可能となります。そのため経営基盤を強化し、生活困窮者支援も可能となる流通拠点の整備をしたいと検討している。

・　ボランティアコーディネート業務：平成２５年度は啓発活動も多く実施したこともあり、フードバンクの知名度が増えた。これによりボランティア希望の方も増えてきた

ので、地域ごとにボランティアコーディネーターの配置を行う必要性を感じている。現在岡山拠点では３人のボランティアによって配送を実施しているが、細かな流通管理となるとのボランティアの獲得が急務だと感じている。

・ 運営資金獲得のための、会員制度の整備：今後フードバンク岡山を法人化するにあたって、会員制度の整備と資金をどう獲得していくかということが急務になっている。特に食の安全を考えるならば責任の所在を正しく明確化するために常勤職員１名の配置を行うのが理想的ですが、各拠点においてはその目処は立っていない。そのため拠点と団体での資金の流れについて今後検討していきたい。

5.2. 笠岡地域でのフードバンク活動

5.2.1. 地域拠点事業実施団体概要

団体名称	ハーモニーネット未来認定ＮＰＯ法人子ども劇場笠岡センター
活動目的	子どもやおとなに対して文化・芸術の鑑賞や創造活動の推進、また社会体験や社会参画の機会の拡充など、すべての人をとりまく生活・文化環境をよりよくする活動を行い、子どもの豊かな成長と安心して生活できる地域社会の創出に寄与することを目的とする。
実施事業概要	○体験活動の企画・推進および支援事業 自然体験、生活体験、文化体験 ○豊かな生活環境の企画・推進および支援事業（生活環境事業） 子育てネットたすけ愛事業、 生活支援事業「日中一時支援事業」 子育てひろば「あおぞら」、ひよこクラブ、ふれあいひろば「虹」 ふれあい・たすけ愛サービス事業、チャイルドライン 笠岡市子育て・子育ちセーフティーネット事業 ○情報発信およびネットワークの構築事業 ○大井児童館指定管理事業

5.2.2. 活動概要

（１）フードバンク食品取扱量

種類	重量（kg）
野菜・かんきつ	８８６．９
穀類・穀物加工食品	１６４．７
レトルト食品	３３２．９
パン類	０．０
菓子類	２０．３
めん類	６２．９
調味料	２６１．７
清涼飲料	３，５３６．６
その他の食料品	３８．２
合計	５，３０４．２

（２）受取団体数：30 団体（153 回）

（３）提供数：6 個人（28 回）（※その他、岡山・津山地域拠点から食品提供）

5.2.3. 活動経緯と実施方法

- フードバンク岡山の笠岡拠点を担うにあたり、行政・社会福祉協議会・養護施設・コミュニテイカフェ（給食サービス）・障がい者施設等に声をかけたいと思い、毎月行われている井笠地域障害者自立支援協議会（笠岡市・井原市・浅口市・里庄町・矢掛町 3 市 2 町）の実務担当者会議で説明した。
- 活用していただく団体等の名簿作成、連絡方法、またどんなものが必要か、調理可・不可等のアンケートを実施した。
- 連絡方法はパソコンからの一斉メールとした。しかし、すべての団体のインターネット環境が整っているわけではないため、メール以外に電話を使っての連絡も多いのが現状である。
- 多量の商品がある場合、笠岡市社会福祉協議会の駐車場に荷降ろししてもらい、各団体がそこに取りに行き、受領書にサインをもらう形をとった。各団体の協力が得られたため、作業がスムーズであった。
- 新聞等にフードバンクの記事が掲載され、不特定多数の人が目にしたため」、個人からも「フードバンクに利用してください」と、乾物の寄付をいただき活用できた。

5.2.4. 笠岡地域のセーフティーネットへの波及効果

- 笠岡市から、障がい者の自立支援のために、「お米など、すぐに食べることができるものがありますか」と問い合せがあり、県北からいただいたお米やアルファ米を活用できたことが大変うれしく思った。また継続して支援することができた。
- フードバンク岡山の活動を通して、新たなネットワークができたことは大変うれしいことであった。拠点では生活困窮者の個人情報を入手する手立てがないため、フードバンクを必要としている人への直接のサポートができないが、新たなネットワークで団体同士がつながったことで、それぞれが把握している生活困窮者へ必要なものを届けることができた。
- 子育てを頑張っているシングル家庭等に、活用できた。

5.2.5. 事例紹介

- 新聞掲載、チラシ等の配布により、個人からの食品提供も増えてきた。
- お寺から乾物等の提供があり、社会福祉協議会にすぐに食べることができるものをマッチングでき、大変喜ばれた。

5.2.6. 課題と展望

- 商品は流通しても、人件費等のお金がついてこないため、フードバンク岡山の運営が円滑に機能するためには継続した財源が必要である。
- フードバンク岡山の活動を通して、新たなネットワークを構築し、今後も「必要な人に必要なものが届く」システムを創っていきたい。

5.3 津山地域でのフードバンク活動

5.3.1. 地域拠点事業実施団体概要

団体名称	ＮＰＯ法人オレンジハート（つやま）
活動目的	市民に対して、子育て支援に関する事業を行い、子どもの健全な成長に寄与することを目的とする。
実施事業概要	・子どもたちの居場所づくり（不登校児支援） ・子どもたちへの学習サポート ・親（大人）たちや地域の方への支援者のためのセミナーや研修 ・親の集まり「ほのぼのタイム」 ・専門カウンセラーによる相談業務

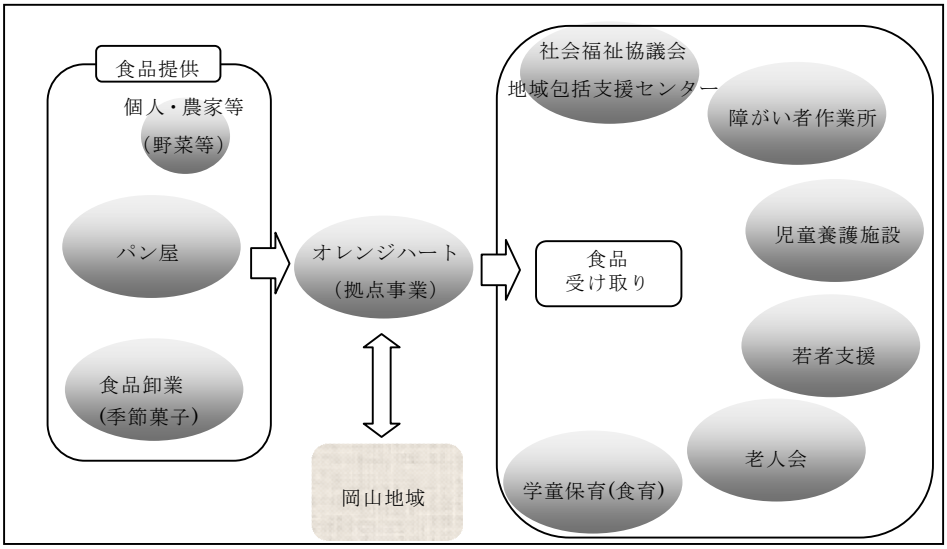
5.3.2. 活動概要

（１）フードバンク食品取扱量

種類	重量（kg）
野菜・かんきつ	６５．６
穀類・穀物加工食品	０
レトルト食品	０
パン類	５２．０
菓子類	２７０．０
めん類	０
調味料	０
清涼飲料	１４５０．８
その他の食料品	４２０．０
合計	２２５８．４

（２）受取団体数：６団体（障がい者作業所、児童養護施設、学童保育等）

（３）提供団体数：２企業、他個人農家等（※その他、岡山地域拠点から食品提供）



5.3.3. 活動経緯と実施方法

- 津山市でさまざまな活動を行っているＮＰＯ、任意団体、町内会、大学などに広く呼びかけ、「食べられる食物」を生かし、地域課題の解決に結びつける「フードバンク活動」について、知ってもらい、それぞれの団体の目指していることや活動の状況、直面している課題について知る機会を設けた。また、団体での活用の可能性を検討してもらい、団体間で協力可能なことも出しあった。
- メーカー、流通、小売など食品にかかわる企業や生産者農家、農協など提供側となる企業や個人へのフードバンクの認知を図り、広く協力者を募った。
- 拠点とコーディネーターを配置し、フードバンク事業を試行した。食品の受け取り、保管、受け渡しの調整、配送、記録など日常的にフードバンク事業を行った。また、食事の提供、居場所づくりなどのコミュニティ活性化の視点での活動を支援したり、実施したりもした。
- 岡山市内の精神障がい者作業所が実施する牛乳配達事業と連携し地域間の食品輸送を実施した。津山市にある牛乳加工場への受け取り便(往復・軽バン)の空きスペースを利用し、フードバンク食品の輸送を実施した。

5.3.4. 津山地域のセーフティーネットへの波及効果

- 津山市社会福祉協議会が、見学に来た際に、アルファ米や飲料を緊急対応が必要な人用に渡した。その後も試験的に食べ物を２度ほど渡している。フードバンク事業での今後の連携協働を模索している。
- 岡山市フードバンク関係団体から野菜や備蓄品、飲料などの届き、また、津山市の企業から提供された食品を岡山市の支援団体に渡し、役立てた。
- フードバンクをテーマにした講演会を地元大学の栄養学科にて実施した。若者層のセーフティーネットへの理解の増進と、フードバンク事業を通した研究機関との連携を促進。

5.3.5. 事例紹介

- フードバンク食品を利用したカフェを実施（3 回)。近所の高齢者が中心に参加。住んでいても集まる機会が少ないため、一緒に食事をすることで、おしゃべりをしながら楽しい時間を提供できた。一人暮らしの方もおられ、「みんなと食べるからたくさん食べられる。」「自分では作らない変わったものが食べられてうれしい。」などの声が寄せられる。
- 地域のエコフェスタへの参加を通して、より広く地域住民にフードバンク活動について知ってもらう機会をつくる。

5.3.6. 課題と展望

- 「フードバンク」の周知に努め、受け取りの登録団体を増やし、提供企業も増やす。
- さらに各団体や個人のつながりが作れるようなしかけを考える。

6
まとめ
資料

6.1 まとめ

6.1.1 成果

本事業での基盤整備整と配置されたスタッフにより、岡山地域、笠岡地域、津山地域においてフードバンク食品 29,665.6kg（内飲料：9,606.8kg）が、89 団体に届けられた。以下に、提供された食品がどれほどの社会的貢献をしているのか独自の試算を行った。

（1）福祉貢献度	12,431,100 円
【試算内訳】飲料：250 円/kg×9,606.8kg＝2,401,700 円 それ以外(食品)：500 円/kg×20058.8＝10,029,400 円	
（2）廃棄コスト削減	888,000 円
【試算内訳】　廃棄コスト：30,000 円/トン×食品：約 29.6 トン＝888,000 円	
（3）CO２排出抑制量	約 45.3 トン
【試算内訳】CO２排出量：1.53t/トン×食品：約 29.6 トン＝45.3 トン	

6.1.2 課題と展望

課題	展望
（１）リスク管理	食中毒、運搬中の車両事故への対応等、リスク把握とリスク説明。分掌主体の明確化と保険制度の完備。契約体制整備。
（２）食品管理システムの活用	モバイル等の積極活用による食品管理システムの利用促進。利用者フィードバック体制の整備とシステム改善体制の整備。
（３）業務の効率化	全体業務の見える化。事業計画の充実。総務経理機能充実。事業責任の分権化。クラウド、ＳＮＳ、ＩＴＣ技術等を活用した業務時間とコストの圧縮、情報共有の充実、決定速度と質の向上。
（４）活動数値化、理論化	より整合性の高い社会貢献度指標の獲得と業務評価の多角化。試算ベースとなる各種データの安定的な蓄積と管理体制。体系的なフードバンク活動の理論化。
（５）認知度、理解度の向上	環境、食育、セーフティーネット等、総合的な切り口からの学習プログラムの開発。ＳＮＳ等を活用した活動の記録と発信。
（６）運営資金の確保	活動参加によるメリットの明確化。宣伝技術の向上。会員等の継続的なケア。渉外とバックヤードとの連携促進。
（７）より顔の見える関係づくり	食品の受け取り、運搬、提供現場でのコミュニケーションの充実。参加個人や団体との情報の共有化による連携促進。これを踏まえて事業全体のリスクの低減と事業効率の促進を図る。

6.2 資料（新聞記事）

岡山地域

①2013 年 6 月 21 日山陽新聞朝刊

「食品ロス」を考える

食料支援「フードバンク」

KAYAMA ～みんなで守ろう！地球環境～

②2013 年 12 月 28 日山陽新聞朝刊

フードバンク岡山設立１年

食品提供の輪広がる

保管場所確保が課題

笠岡地域

①2014年2月26-28日山陽新聞朝刊

笠岡・井原圏版 Kasaoka・Ibara

広がる食の支援 ~井笠の取り組みから 上

「無駄」を社会貢献に

「店で売っている商品と全く同じ。これが廃棄されてしまう可能性があったなんて」

昨年11月、笠岡市社会福祉協議会(同市十一番町)の駐車場に大型トラックから下ろされた約120箱の缶コーヒー。箱に記載された賞味期限は2014年1月と記してある。受け取った「フードバンク岡山　笠岡拠点」の宇野均恵代表は、中身を確認して驚きの声を上げた。

これらは、製造元の食品メーカーから無償で提供を受けたもの。製造日から賞味期限までの期間が残り3分の1を過ぎると納品できなくなる「3分の1ルール」という食品業界の商習慣から販売ルートに乗せられなかったとみられるという。

缶コーヒーは、宇野代表らが井笠地域の福祉団体や事業所などに呼び掛けて分配。会合で使用されたり、ボランティアへのねぎらいとして活用された。

賞味期限が近づき、メーカーが「フードバンク岡山　笠岡拠点」に提供した飲料。井笠地域の福祉団体などに分配された

年500万～800万㌧

農林水産省によると、国内で発生する食品廃棄物は年間約1700万㌧。そのうち、本来食べられるのに廃棄されてしまう「食品ロス」は、国内で年間500万～800万㌧に上るという。フードバンクは、それらを引き取って、必要とする人たちに再分配する取り組みだ。

県内では12年11月、NPO法人など18団体の代表者が呼び掛け人となって「フードバンク岡山」が発足した。糸山智栄理事長は「これまで無駄になっていた食品をホームレス支援など社会貢献に活用できる」と狙いを説明する。

岡山市を中心に笠岡、津山、備前市に6拠点が設置されている。笠岡拠点は、宇野代表が理事長を務める認定NPO法人子ども劇場笠岡センターを主体に笠岡、浅口市などの各社会福祉協議会が協力して、井笠地域での活動を担っている。

延べ80品目

笠岡拠点が発足から1年間で提供を受けた食品は、米や野菜、レトルト食品、飲料など延べ約80品目に上る。提供してくれるのは県内外の農家や食品を扱う企業が中心で、災害用に備蓄していた非常食を更新時に寄贈した事業者もあった。

提供の理由は、売れ残りによる在庫処分や規格外品などさまざま。中には、ラベルの図柄変更によるものや張り付ける際に少しずれただけの商品もあったという。

「こういった形で食品ロスが生まれてしまっているのを活動を通して知った」と宇野代表。「大量の食品が廃棄されている一方で食の支援を必要とする人は確実に存在している。見過ごされてしまっている食品ロスを少しでも生かし、支援の輪につなげていきたい」と力を込める。

◇

食品の製造や流通の過程などで日々、大量に発生している食品ロス。環境に対する意識が高まる中、全国で「フードバンク」の設立が進んでいる。井笠地域で動きだした取り組みを追った。

笠岡・井原圏版 Kasaoka・Ibara

広がる食の支援 ~井笠の取り組みから 中

材料提供 負担を軽減

昼食の準備に大忙しの精神障害者を支援するNPO法人「すみれ会」(笠岡市笠岡)の食堂。炒めたニンジンやタマネギなどが入れられた大鍋にトマトソースが加えられ、香ばしいにおいが広がった。

この日のメニューはミートスパゲティなど3品。使われたトマト缶は「フードバンク岡山　笠岡拠点」が提供したものだ。

すみれ会では、1食200円で給食サービスを提供している。月曜日から金曜日まで毎日、利用者や職員40人分ほどの昼食を賄う。

「予算が決まっているので毎月やりくりが大変」と食堂を担当する職員の伊達恵美子さん(54)。それでも「1人暮らしの人もいる。できるだけ栄養のあるおいしいメニューにしたい」と少しでも食材を安く手に入れるため、買い出しに走り回るという。

伊達さんは「フードバンクで浮いたお金で、内容を少しでも充実させることができる。本当に助かっている」と感謝する。

NPO法人すみれ会が行っている給食サービス。この日のメニューは「フードバンク岡山　笠岡拠点」が提供したトマト缶を使って調理された

困窮者の力に

生活困窮者の支援に物資を利用している団体もある。

笠岡市社会福祉協議会(同市十一番町)では、家庭や仕事の困り事、生活再建について、アドバイスしたり行政的な支援に結びつける生活相談を実施している。

訪れるのは、一人親家庭や派遣切りで職を失ったり債務を抱えたりと、若者から高齢者までさまざま。中にはその日の食事にも困っているようなケースもあり、その際にフードバンクから提供を受けた食品を渡しているという。

同協議会には困窮者に最大5万円を貸し付ける緊急援護資金という事業もある。だが、債務を抱える人にとっては借金に借金を重ねる形にもなる。

地域福祉係の仁科宏章さんは「お金を貸すことが支援になるとは必ずしもいえない場合がある」という。それに対して、フードバンクを活用した支援では「必要なものを現物ですぐ渡すことができる。受け取る側には負担を感じなくて済む」。しかも「相談者に気持ちの余裕が生まれ、次のステップに結びつけやすくなるなど効果がある」と説明する。

人結び心も豊か

フードバンクの活動は、もともと貧困者支援のため1960年代の米国で始まった。現在は世界60カ国以上に広まり、中には韓国のように社会保障制度の一部に組み入れられている国もある。日本では、食品ロス削減や環境保護といった効果も期待されている。

フードバンク岡山が活動を始めて1年以上が経過。笠岡拠点の宇野均恵代表は、これまでの経験を通して確信を深めた。「食には人と人をつなげ、心を豊かにする効果がある」

笠岡・井原圏版 Kasaoka・Ibara

広がる食の支援 ~井笠の取り組みから 下

知名度 理解度向上を

「活動を通して新たなつながりが生まれた。当初思い描いていた活動が着実にできている」

昨年12月、笠岡市六番町の市民活動支援センターで開かれた「フードバンク岡山　笠岡拠点」の連絡会議。運営に協力する同市社会福祉協議会や福祉団体など11団体の関係者を前に、宇野均恵代表は発足から1年の活動をこう振り返った。

同拠点では井笠地域の約30団体でネットワークを構成。食品提供があるとメールでメンバーに呼び掛け、必要数に応じて配布している。これまでも突然、大量の野菜や飲料が届いたことがあった。それでもネットワークがあったからこそ、余すことなく分配してきた。

「フードバンク岡山」の糸山智栄理事長は「せっかく提供を受けたものを無駄にしてしまっては何にもならない。それだけに受け手の確保は一番難しい問題だ」と強調する。その上で笠岡拠点の活動を「本当に困っている人の元へ届くよう団体間のつながりをうまく活用している」と評価する。

NPO法人化

だが、一方で課題も見えてきた。会合では「物資が定期的にあればもっと利用しやすい」という意見が出されたが、提供を受ける食品の内容や時期、量などを事前に把握することは難しい。宇野代表も「もっと頻繁に提供できれば活動の幅は広がる」と問題点を認識する。

発足から1年を機に開かれた連絡会議。活動成果や今後の課題について意見を出し合った

事務局のある岡山市内では、活動に協力する大型スーパーがあり、ほぼ毎日、青果物を確保できる。しかし、各団体の協力で運営されている笠岡拠点では財政的な余裕や人手がなく、物資はあっても笠岡まで輸送するのは困難という。

運営にかかる経費やスタッフの確保といった問題は、笠岡以外の五つの拠点でも共通する。事務局では昨年12月、組織をこれまでの任意団体からNPO法人化。信用力を高めて、行政からの補助金などを受けやすくすることで各拠点の活動をサポートできる体制づくりを目指している。

仕組みづくり

知名度や活動への理解度向上も課題の一つだ。笠岡拠点では、井笠地域の食品関係の事業所に協力を呼び掛けても提供を断られることが多い。理由について、宇野代表は「社内のルールとして定められていることで廃棄が当たり前という意識になってしまっているため」と指摘する。

しかし、生産者側も汗水流して作ったものの廃棄を決して望んでいるわけではない。「理解が深まれば協力してくれるところも増えるはず。今後は呼び掛けに力を入れ、井笠地域で食料が集まる仕組みづくりに取り組んでいきたい」と意欲を燃やしている。

……

洞井宏太が担当しました。

津山地域

③2013 年 1 月 22 日山陽新聞朝刊

フードバンク広島・原田理事長 美作大で講義

食品ロスの現状知って

食に困っている人々を支援するNPO法人「あいあいねっと」（フードバンク広島、広島市安佐北区）の原田佳子理事長(61)が21日、食べられるのにごみとして捨てられる「食品ロス」をテーマにした特別講義を津山市北園町の美作大で行った。

栄養士の資格取得を目指す学生が多い食物学科の1年生約90人が出席。原田さんは日本で年間500～800万トンもの食品ロスが発生しているデータを挙げ、「賞味期限が迫ったものより、むしろ作りすぎや包装に傷があるなど品質上全く問題ない食品の廃棄が目立つ」と説明した。

一方で、高齢化や2008年のリーマンショックで生活困窮者は増え続け、規格外の作物などを福祉施設へ無料提供する「フードバンク」が全国約40カ所で活動している現状を紹介。「栄養士の資格はフードバンク活動で大いに役立つ。皆さんももっと関わってほしい」と呼び掛けた。

特別講義は子育て支援のNPOオレンジハート（岡山市）が企画。22日には同短大部栄養学科1年生約40人も聴講した。（小畑誠）

「食品ロス」の現状について説明する原田理事長

発行年月：2014年3月
発行：フードバンク岡山
発行者：糸山智栄（フードバンク岡山理事長）
〒703-8227　岡山県岡山市中区兼基 107-2　NPO 法人杜の家内
TEL/FAX　：086-280-3233 / 086-279-0068（大森）
Mail　　：info@fbokayama.com

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業